

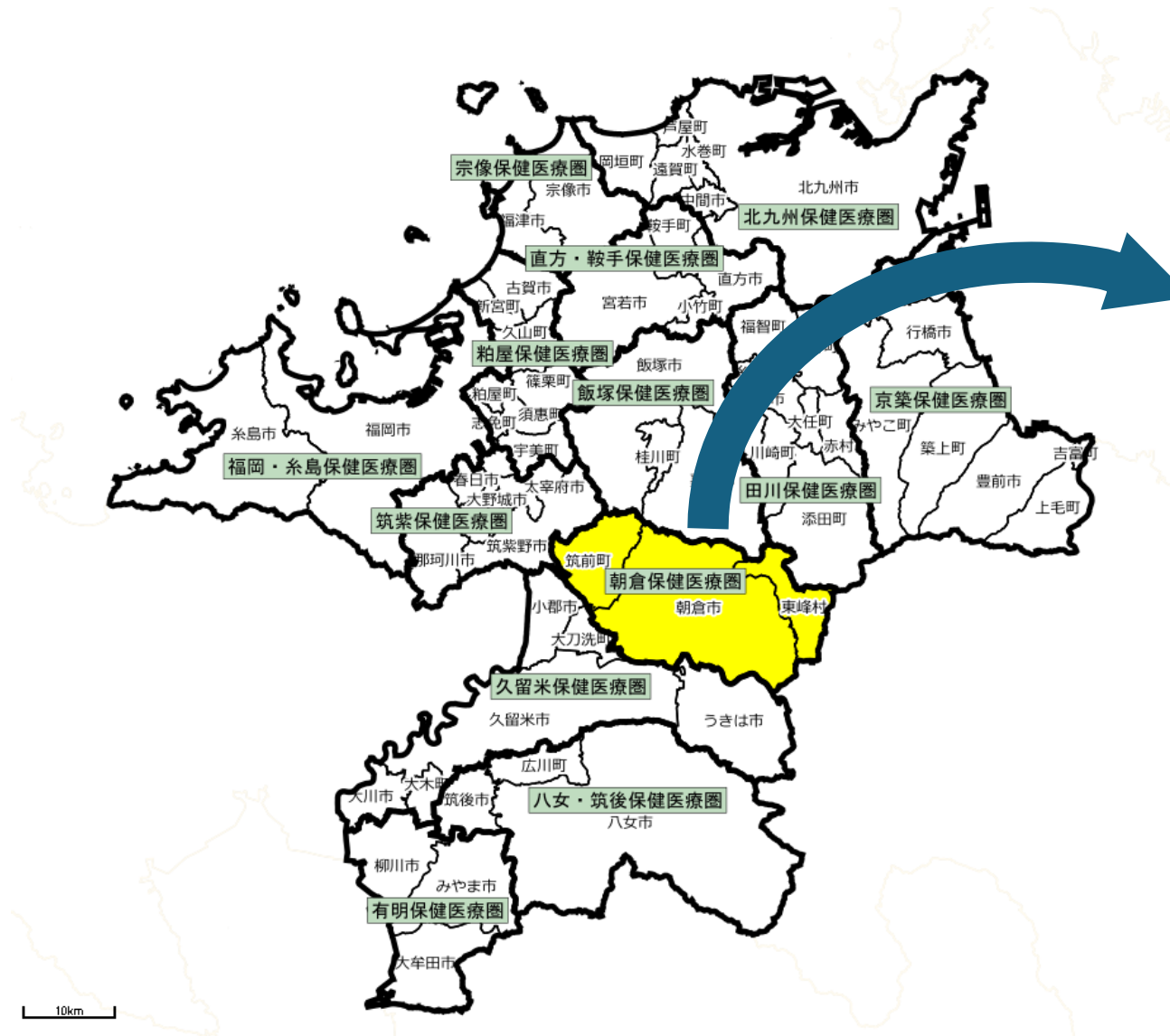
地区診断

—朝倉区域—

目次

1	概要	3
2	人口の状況	4
3	出生率の状況	9
4	死亡率の状況	10
5	将来推計人口の推移	11
6	市町村別将来推計人口の推移	15
7	SCRの状況	17
8	患者推計	22
9	医療従事者数〔医師〕	24
10	医療従事者数〔医師・診療科〕	26
11	医療従事者数〔常勤医師〕	27
12	医療介護資源の状況	29
13	医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕	31
14	在宅医療の状況	36
15	看護職員の状況	41
16	二次医療圏の人口及び流入流出患者割合・比較表	43
17	二次救急及び急患センターの位置（隣接区域含む）	44
18	人口メッシュ（500m）	45
19	救急搬送の状況	46
20	救急医療電話相談利用件数	51
21	MDC別割合	52

1. 概要



構成市町村:1市1町1村
(朝倉市、筑前町、東峰村)

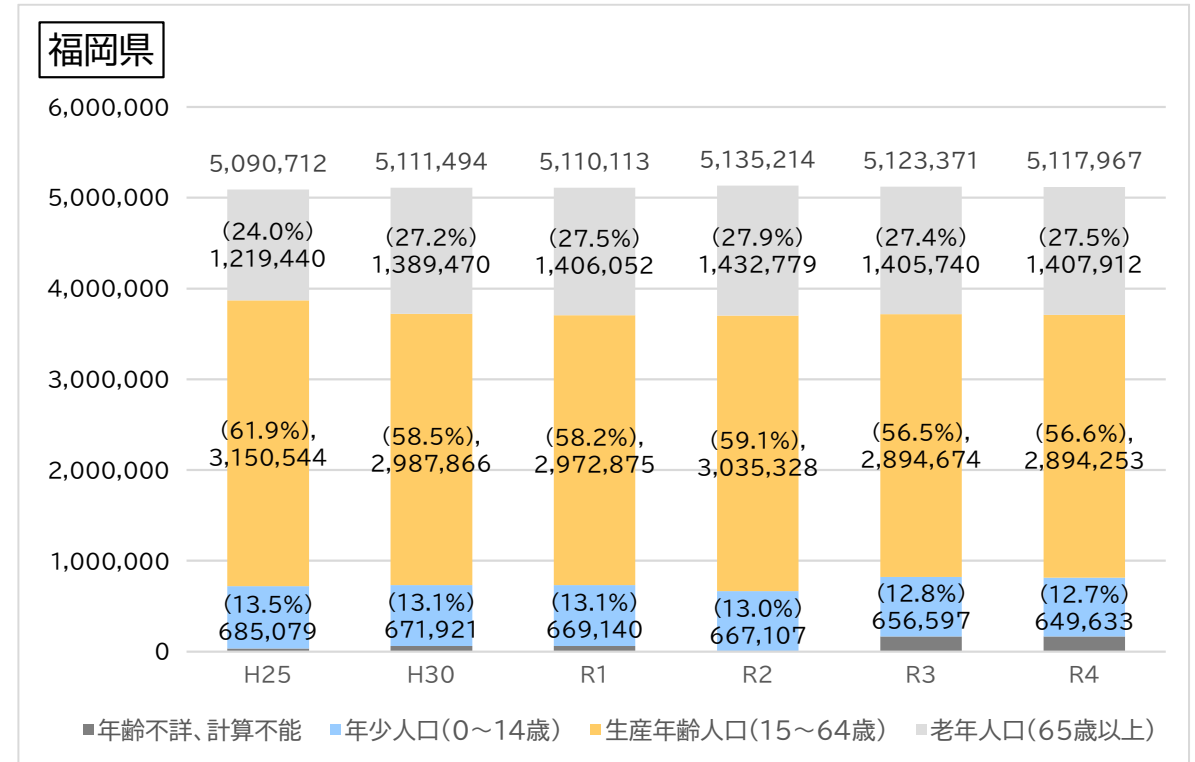
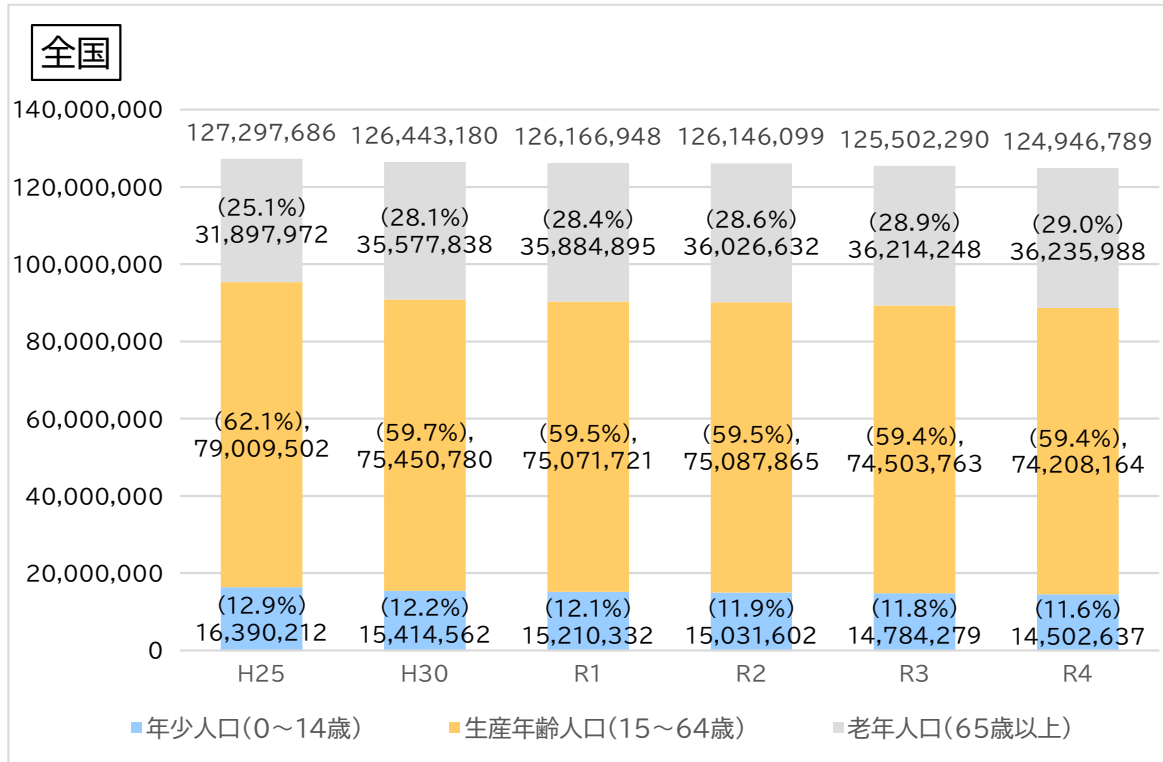
面積:365.78km²

人口:81,763人(令和2年国勢調査)
〔うち年少人口(0~14):10,383人(12.7%)〕
〔うち生産年齢人口(15~64):43,117人(52.7%)〕
〔うち老年人口(65~):27,630人(33.8%)〕

出生数:499人(令和4年福岡県保健統計年報)
(人口千対:6.3)※ 県平均7.1

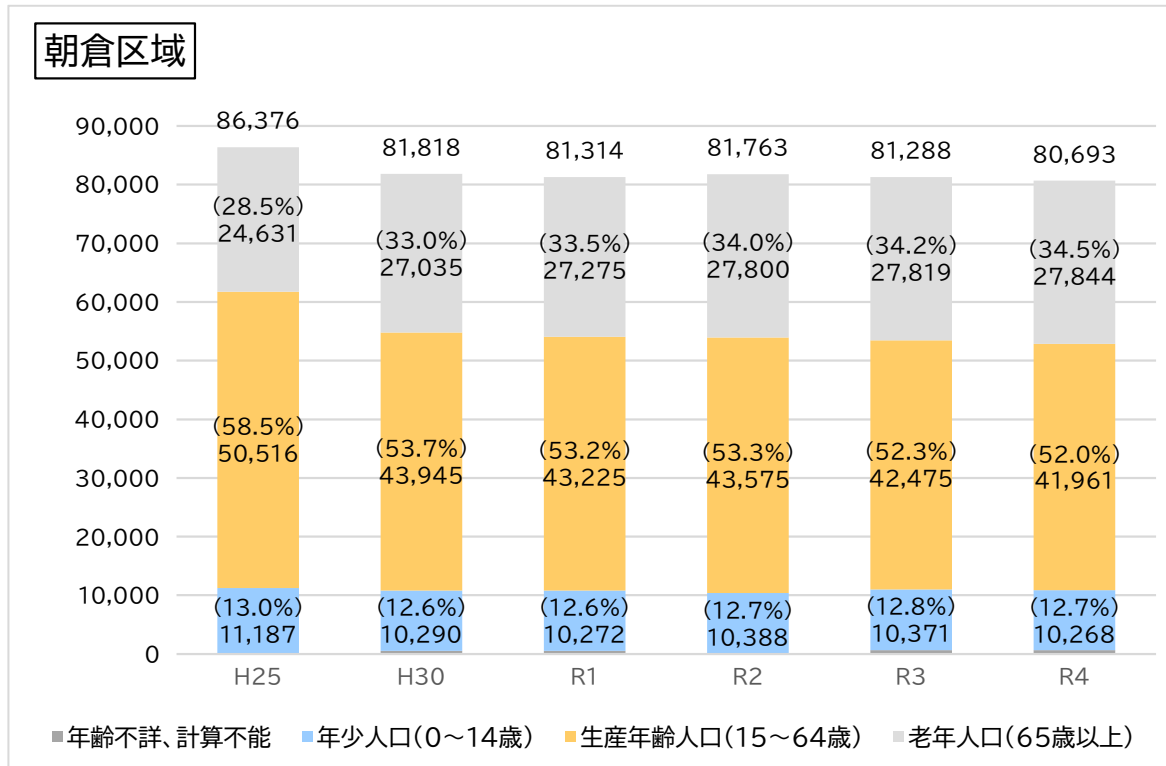
死亡数:1,226人(令和4年福岡県保健統計年報)
(人口千対:15.4)※ 県平均12.2

2. 人口の状況 (「福岡県の人口・年齢3区分別(各年10月1日現在)」)



- ・総人口について、全国は減少傾向であり、福岡県は令和2年をピークに減少していく見込み
- ・年齢3区分別人口の推移を見ると、全国、福岡県ともに、老年人口の割合は増加傾向で、生産年齢人口、年少人口は、減少傾向となっている
- ・老年人口の割合は、H25年からR4年までで、全国で3.9ポイント増加し、福岡県では、3.5ポイント増加している

2. 人口の状況 (「福岡県の人口・年齢3区分別(各年10月1日現在)」)



- ・総人口については、減少傾向

- ・年齢3区分別人口の推移を見ると、老年人口は増加傾向で、生産年齢人口、年少人口は、減少傾向となっている

- ・老年人口の割合は、30%を超えており、H25年からR4年までで、6.0ポイント増加している

- ・各市町村の状況をもみても(スライド6参照)、いずれの市町村も老年人口の割合は30%を超えているが、東峰村ではR4年で50%近くに達しており、高齢化の進行が顕著である

2. 人口の状況 (「福岡県の人口・年齢3区分別(各年10月1日現在)」)

●朝倉区域の各市町村の状況

	H25				H30				R1				R2				R3				R4			
	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	総数
朝倉市	6,945 (12.7%)	31,714 (57.8%)	16,139 (29.4%)	54,858	6,022 (11.9%)	26,727 (52.9%)	17,216 (34.1%)	50,516	5,963 (12.0%)	26,061 (52.2%)	17,323 (34.7%)	49,894	6,076 (12.1%)	26,509 (52.7%)	17,688 (35.2%)	50,273	5,987 (12.1%)	25,547 (51.4%)	17,568 (35.4%)	49,661	5,820 (11.9%)	25,127 (51.2%)	17,537 (35.8%)	49,042
筑前町	4,006 (13.7%)	17,660 (60.4%)	7,587 (25.9%)	29,250	4,064 (13.9%)	16,293 (55.6%)	8,952 (30.5%)	29,306	4,110 (13.9%)	16,281 (55.2%)	9,087 (30.8%)	29,473	4,128 (14.0%)	16,220 (54.8%)	9,243 (31.2%)	29,591	4,201 (14.1%)	16,127 (54.2%)	9,371 (31.5%)	29,764	4,270 (14.3%)	16,067 (53.8%)	9,438 (31.6%)	29,839
東峰村	236 (10.4%)	1,142 (50.4%)	905 (39.9%)	2,268	204 (10.2%)	925 (46.3%)	867 (43.4%)	1,996	199 (10.2%)	883 (45.4%)	865 (44.4%)	1,947	184 (9.7%)	846 (44.5%)	869 (45.8%)	1,899	183 (9.8%)	801 (43.0%)	880 (47.2%)	1,863	178 (9.8%)	767 (42.3%)	869 (48.0%)	1,812

※総数には年齢不詳、計算不能を含む

2. 人口の状況 (2020年(令和2年)「国勢調査」)

●昼夜間人口

表1) 昼間人口・夜間人口

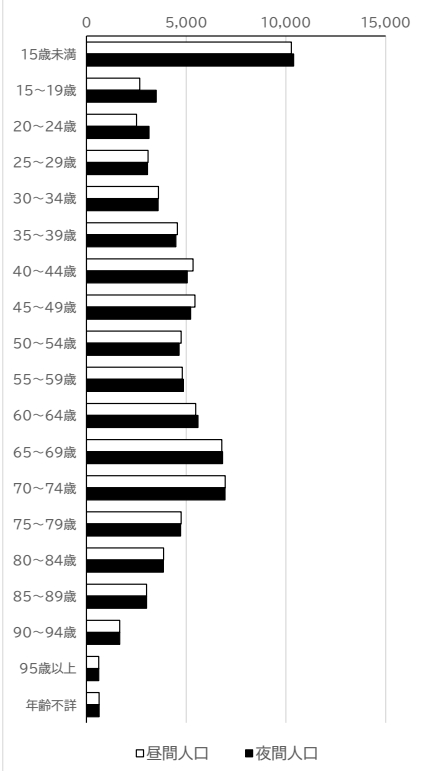


表2) 昼夜間人口比率

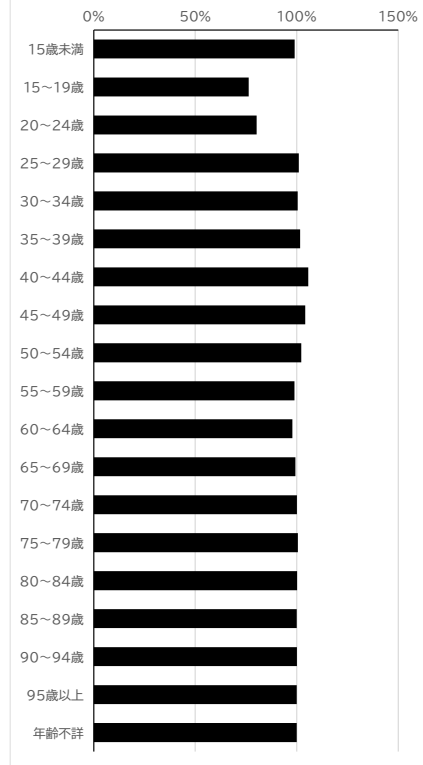


表3) 年齢別昼夜間人口

年齢	昼間人口		夜間人口		昼夜差		昼夜間人口比率					
	男	女	男	女	男	女	男	女				
総数	80,753	81,763	81,763	98.8%	38,510	42,243	38,475	43,288	35	-1,045	100.1%	97.6%
15歳未満	10,273	10,383	10,383	98.9%	5,176	5,097	5,230	5,153	-54	-56	99.0%	98.9%
15～19歳	2,667	3,495	3,495	76.3%	1,343	1,324	1,790	1,705	-447	-381	75.0%	77.7%
20～24歳	2,513	3,130	3,130	80.3%	1,237	1,276	1,512	1,618	-275	-342	81.8%	78.9%
25～29歳	3,086	3,056	3,056	101.0%	1,643	1,443	1,521	1,535	122	-92	108.0%	94.0%
30～34歳	3,608	3,593	3,593	100.4%	1,898	1,710	1,784	1,809	114	-99	106.4%	94.5%
35～39歳	4,555	4,480	4,480	101.7%	2,317	2,238	2,223	2,257	94	-19	104.2%	99.2%
40～44歳	5,339	5,052	5,052	105.7%	2,857	2,482	2,574	2,478	283	4	111.0%	100.2%
45～49歳	5,438	5,220	5,220	104.2%	2,838	2,600	2,645	2,575	193	25	107.3%	101.0%
50～54歳	4,745	4,642	4,642	102.2%	2,330	2,415	2,226	2,416	104	-1	104.7%	100.0%
55～59歳	4,805	4,858	4,858	98.9%	2,303	2,502	2,315	2,543	-12	-41	99.5%	98.4%
60～64歳	5,471	5,591	5,591	97.9%	2,609	2,862	2,693	2,898	-84	-36	96.9%	98.8%
65～69歳	6,780	6,825	6,825	99.3%	3,311	3,469	3,337	3,488	-26	-19	99.2%	99.5%
70～74歳	6,950	6,947	6,947	100.0%	3,314	3,636	3,313	3,634	1	2	100.0%	100.1%
75～79歳	4,743	4,719	4,719	100.5%	2,098	2,645	2,082	2,637	16	8	100.8%	100.3%
80～84歳	3,862	3,855	3,855	100.2%	1,450	2,412	1,443	2,412	7	0	100.5%	100.0%
85～89歳	3,007	3,008	3,008	100.0%	972	2,035	973	2,035	-1	0	99.9%	100.0%
90～94歳	1,669	1,667	1,667	100.1%	395	1,274	395	1,272	0	2	100.0%	100.2%
95歳以上	609	609	609	100.0%	88	521	88	521	0	0	100.0%	100.0%
年齢不詳	633	633	633	100.0%	331	302	331	302	0	0	100.0%	100.0%

- ・昼夜間人口の差が最も大きい年代は「15-19歳」であり、通学で域外に流出しているものと思料
- ・25歳以上の年代については、昼夜間人口比率が100%前後の比率となっている
- ・昼夜間人口比率を就業の年代(25-64)で見ると、「25-54」の年代層の男性は昼間人口が多く、「25-34」の年代層の女性は夜間人口が多い状況となっており、これらの年代層の男性は域外から流入し、女性は域外に流出しているものと思われる

2. 人口の状況 (2020年(令和2年)「国勢調査」)

表4) 昼夜間人口比率

		計		就業者		通学者		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女
自地域内で 従業・通学 等	自地域内で、従業・通学	15,557	15,947	12,327	12,671	3,230	3,276	0	0
	従業も通学もしていない	10,264	17,257					10,264	17,257
	不詳	4,415	4,071	855	653	518	515	3,042	2,903
	計	30,236	37,275	13,182	13,324	3,748	3,791	13,306	20,160
流出	他地域に従業・通学	8,239	6,013	7,372	5,171	867	842	0	0
流入	他地域から従業・通学	8,274	4,968	8,070	4,694	204	274	0	0

主な流出先

【就業】

市区町村名	流出(人)	構成比	市区町村名	流出(人)	構成比
1 福岡県 久留米市	2,298	18.32%	1 福岡県 久留米市	429	25.10%
2 福岡県 筑紫野市	1,577	12.57%	2 福岡県 福岡市博多区	158	9.25%
3 福岡県 小郡市	1,225	9.77%	3 福岡県 小郡市	138	8.07%
4 福岡県 うきは市	1,085	8.65%	4 福岡県 太宰府市	137	8.02%
5 福岡県 福岡市博多区	989	7.88%	5 大分県 日田市	122	7.14%

主な流入元

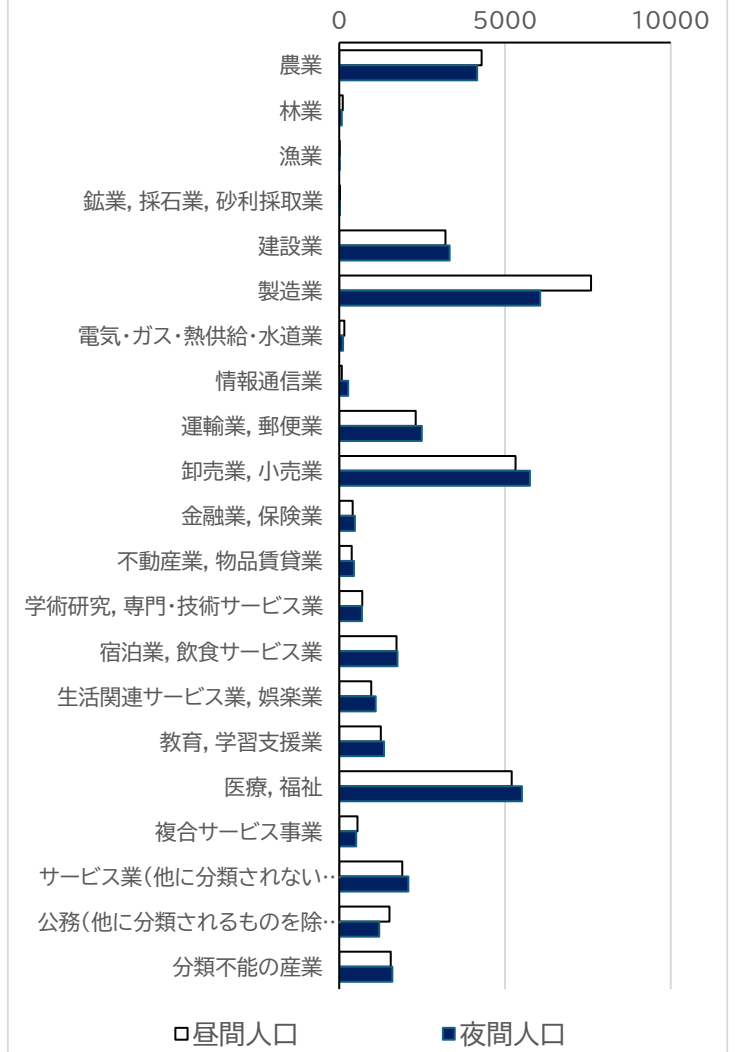
【就業】

市区町村名	流入(人)	構成比	市区町村名	流入(人)	構成比
1 福岡県 久留米市	2,999	23.50%	1 福岡県 久留米市	144	30.13%
2 福岡県 うきは市	1,926	15.09%	2 福岡県 うきは市	123	25.73%
3 福岡県 小郡市	1,604	12.57%	3 福岡県 大刀洗町	94	19.67%
4 福岡県 筑紫野市	1,358	10.64%	4 福岡県 小郡市	76	15.90%
5 福岡県 大刀洗町	1,263	9.90%	5 福岡県 筑紫野市	13	2.72%

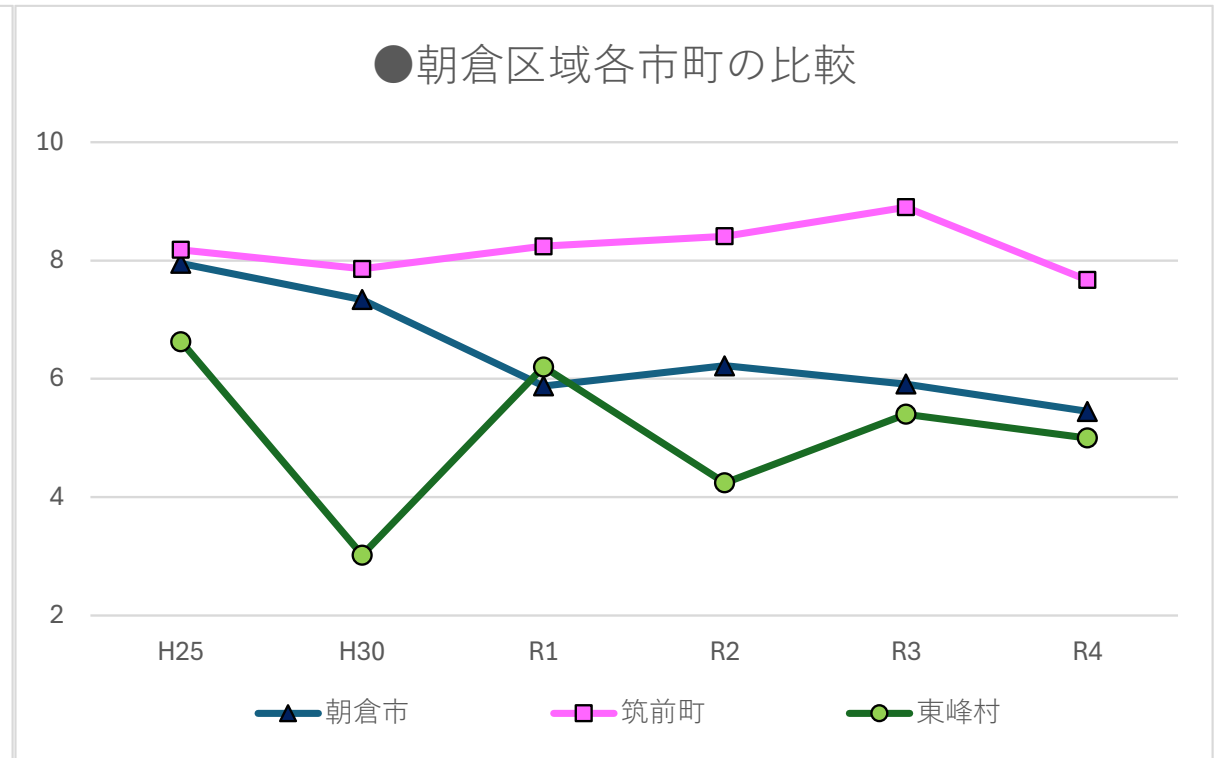
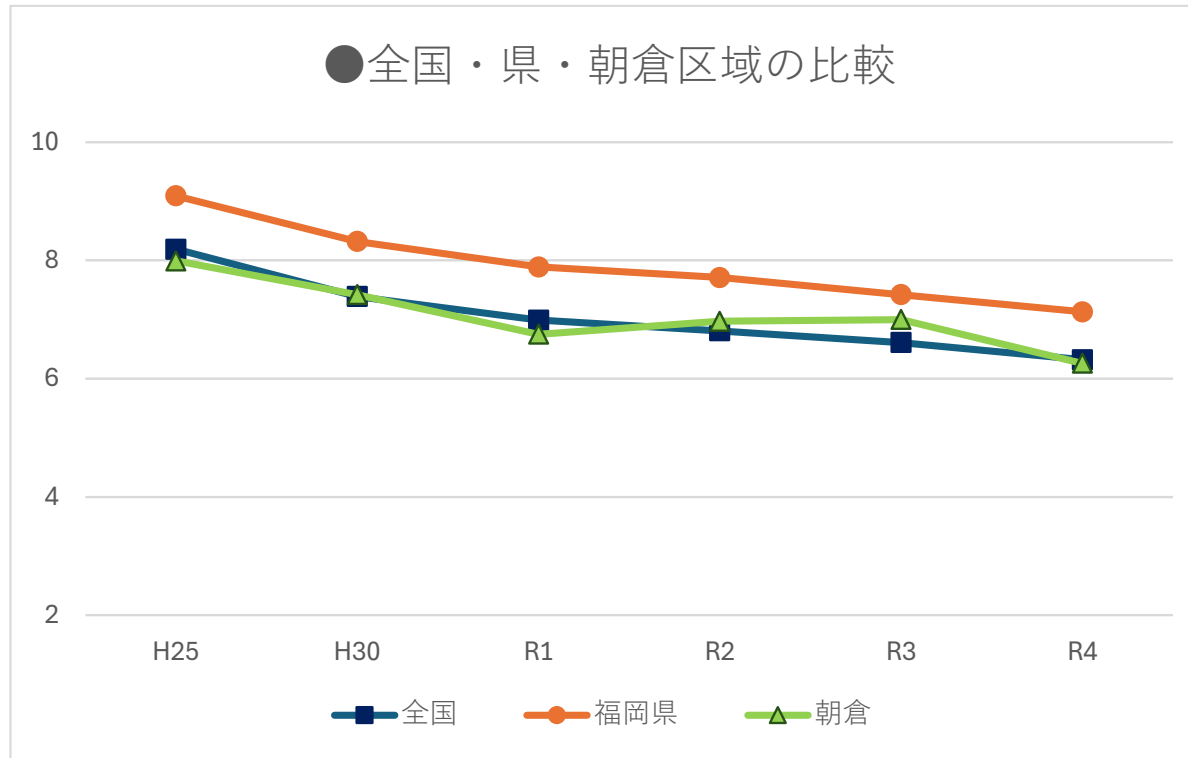
・就業者は、男性は流入が多く、女性は流出が多い
 ・通学者は、男女ともに流出が多い

産業別に昼間人口を見ると、製造業が最も多く、次いで卸売業、小売業、医療・福祉となっている
 製造業は、夜間人口よりも昼間人口が多いなど、地区内の製造業に他地区から流入している状況がみられる

表5) 昼間人口・夜間人口

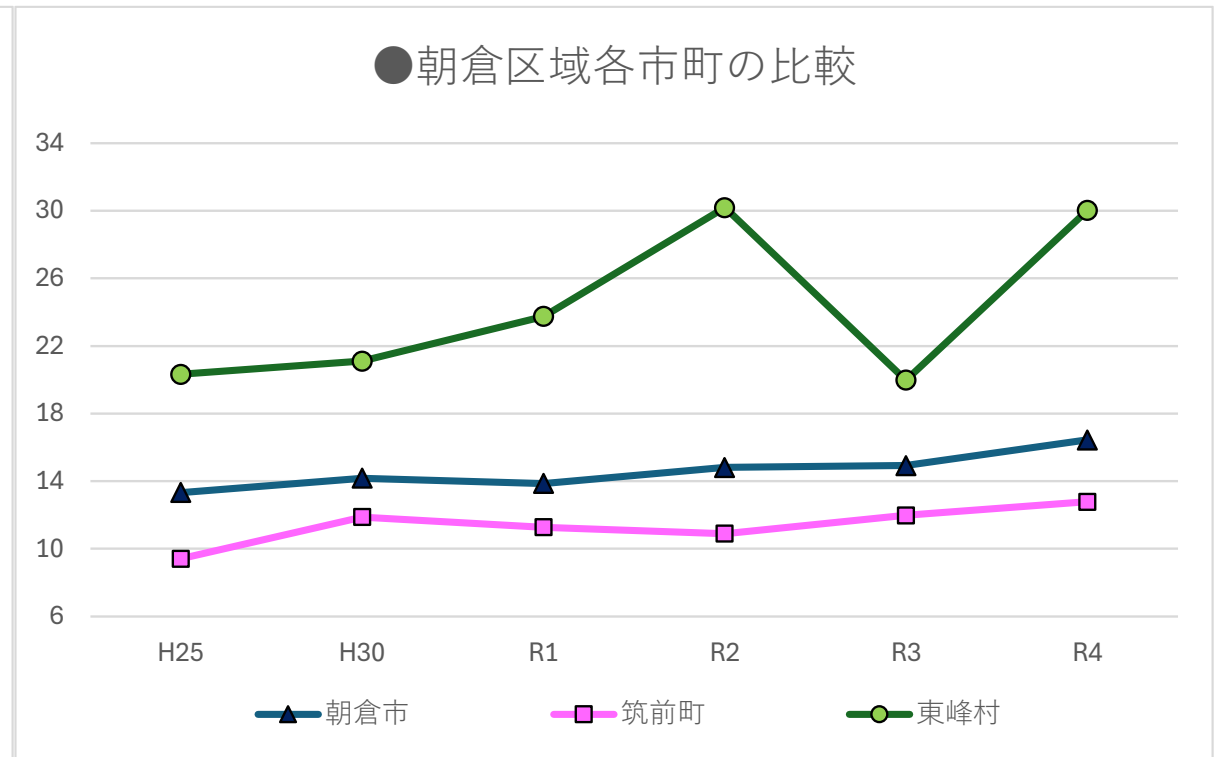
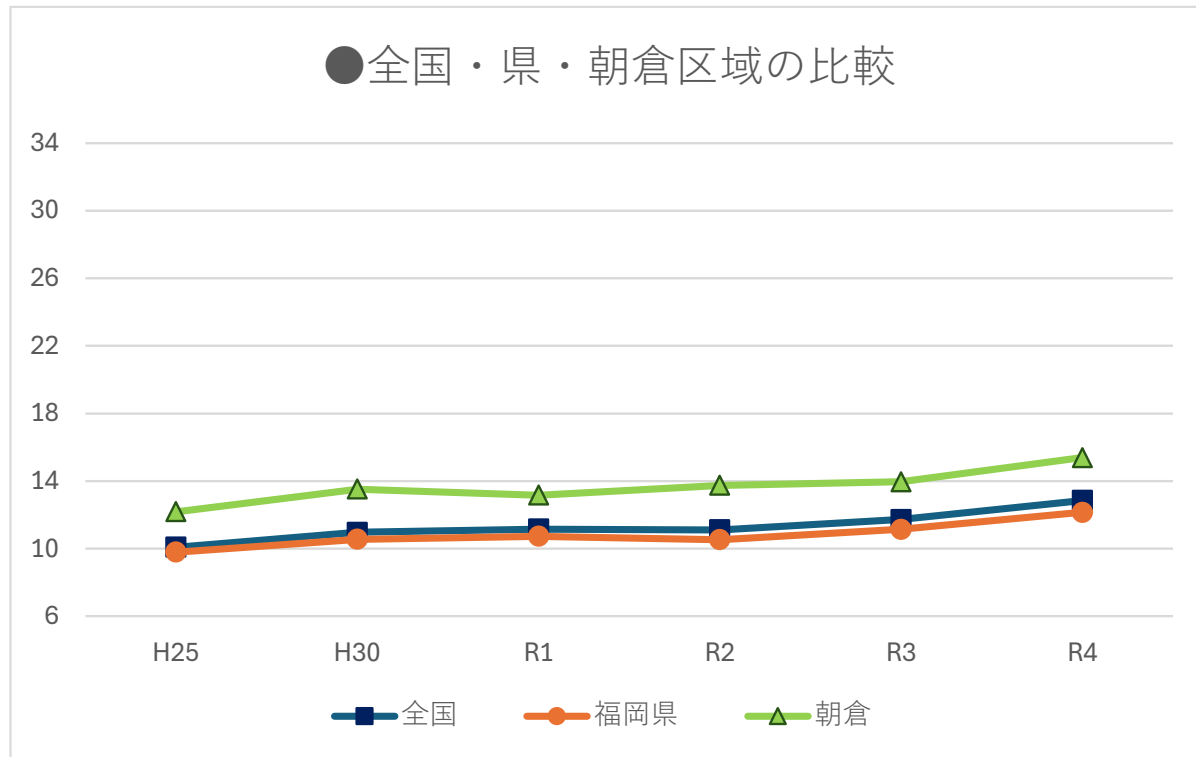


3. 出生率の状況 (「福岡県保健統計年報」)



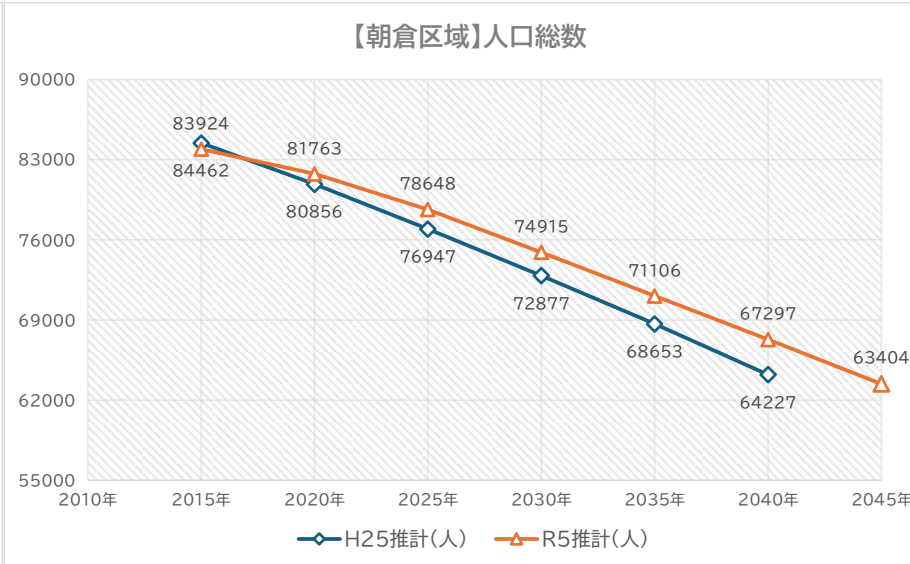
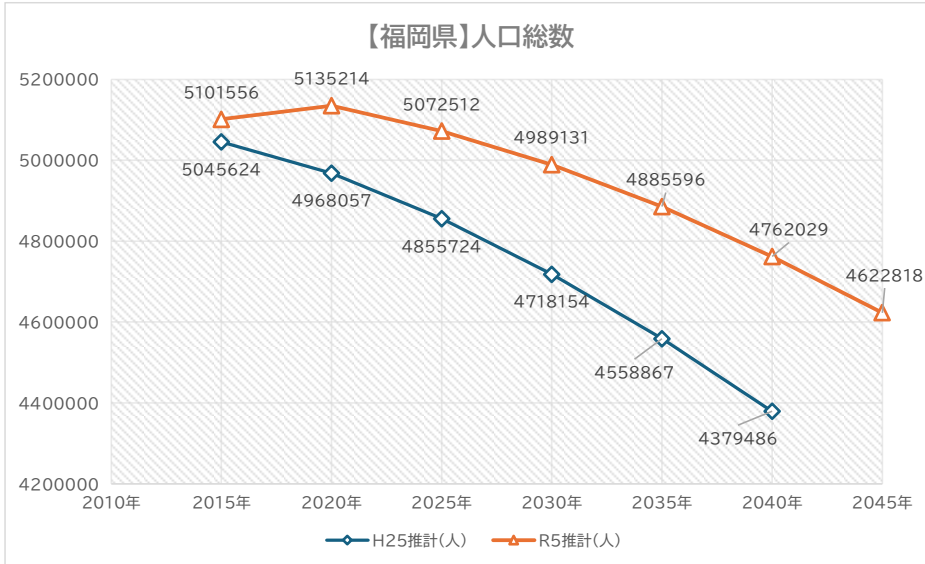
- ・出生率(人口千対)は、総人口、生産年齢人口の減少もあり、全国、福岡県、ともに低下傾向となっている 朝倉区域はR2年、R3年と上昇傾向にあったが、R4年は低下に転じた
- ・市町村別で見ると、筑前町では上昇傾向にあったが、R4年に減少に転じた 朝倉市、東峰村は年度ごとに増減はあるものの、概ね減少傾向となっている
- ・R4年で出生率が県平均(7.1%)よりも高い市町村は筑前町、県平均より低い市町村は朝倉市、東峰村である

4. 死亡率の状況 (「福岡県保健統計年報」)



- ・死亡率(人口千対)は、老年人口の増加もあり、全国、福岡県、朝倉区域ともに上昇傾向となっている
- ・朝倉区域は、老年人口の割合が全国、福岡県と比較して高いため、死亡率も高くなっているものと思料
- ・市町別に見ると、各市町村で異なった動きをしているが、概ね、上昇傾向にあると資料
- ・R4年の死亡率は、全ての市町村で県平均(12.2%)よりも高く、最も高いのは東峰村の30.0%である

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)



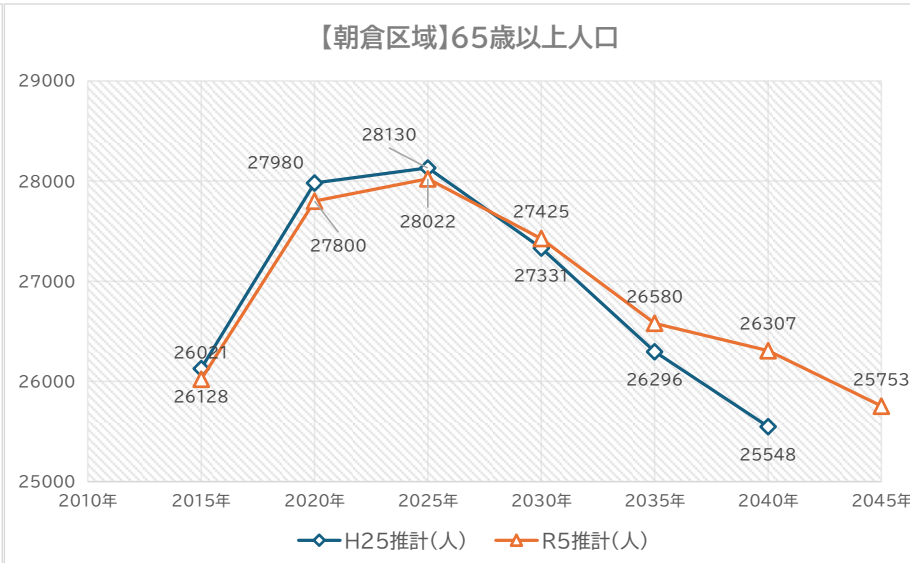
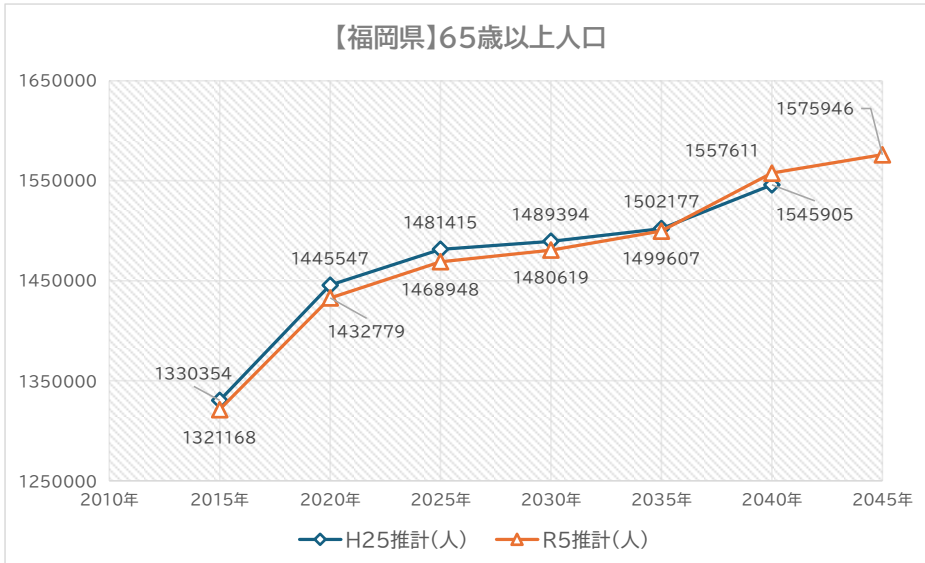
人口総数については、地域医療構想策定当時の推計(H25)と最新の推計(R5)を比べると、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

当初の推計では、2015年以降減少する見込みであったが、R5推計では、2020年をピークに緩やかに減少する見込み

【朝倉区域】

当初推計と同様の傾向であるが、当初推計よりも若干緩やかに推移する見込み



65歳以上人口については、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

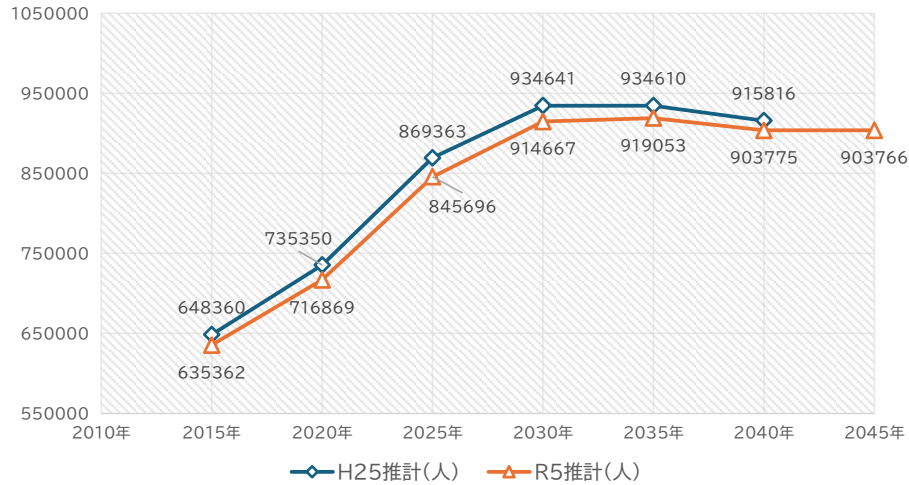
当初の推計と概ね同様の傾向で推移する

【朝倉区域】

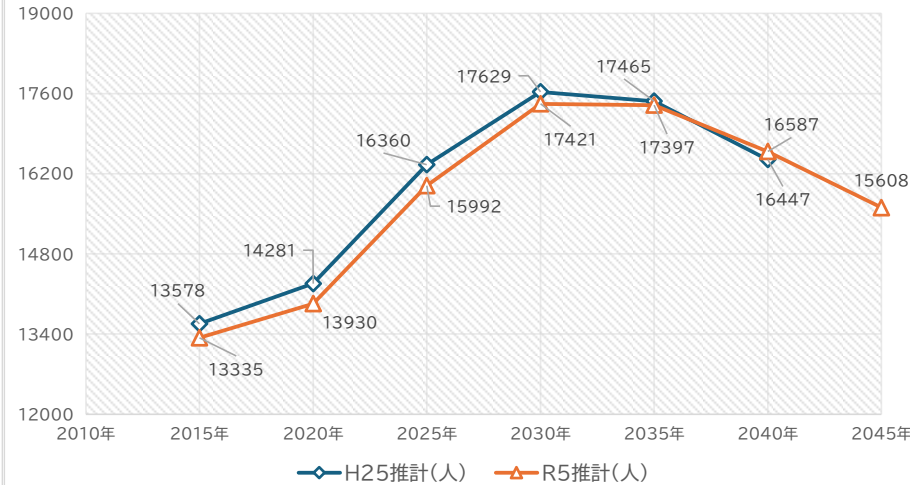
当初推計と同様の傾向で推移するが、若干緩やかに推移する見込み

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

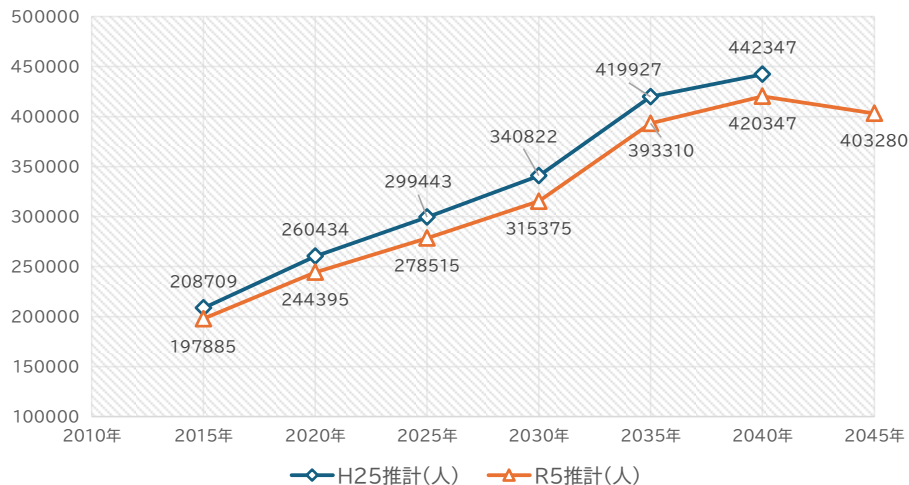
【福岡県】75歳以上人口



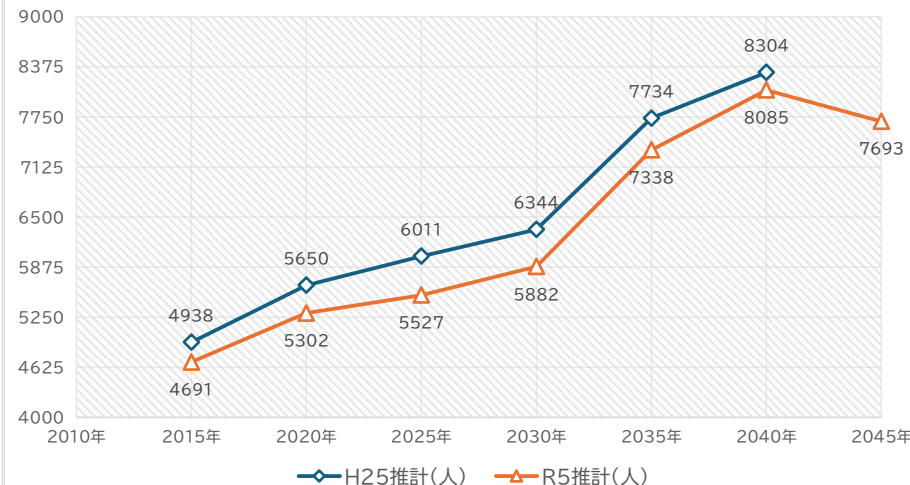
【朝倉区域】75歳以上人口



【福岡県】85歳以上人口



【朝倉区域】85歳以上人口



75歳以上人口については、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは若干減少で推移する見込み

【朝倉区域】

当初推計と同様の傾向で推移するが、人数そのものは減少する見込み

85歳以上人口については、以下の状況が読み取れる

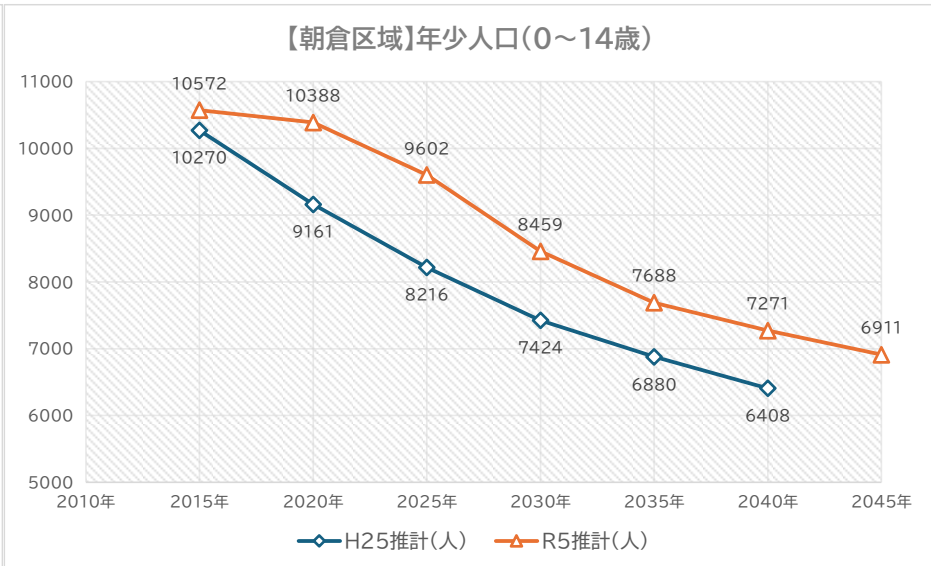
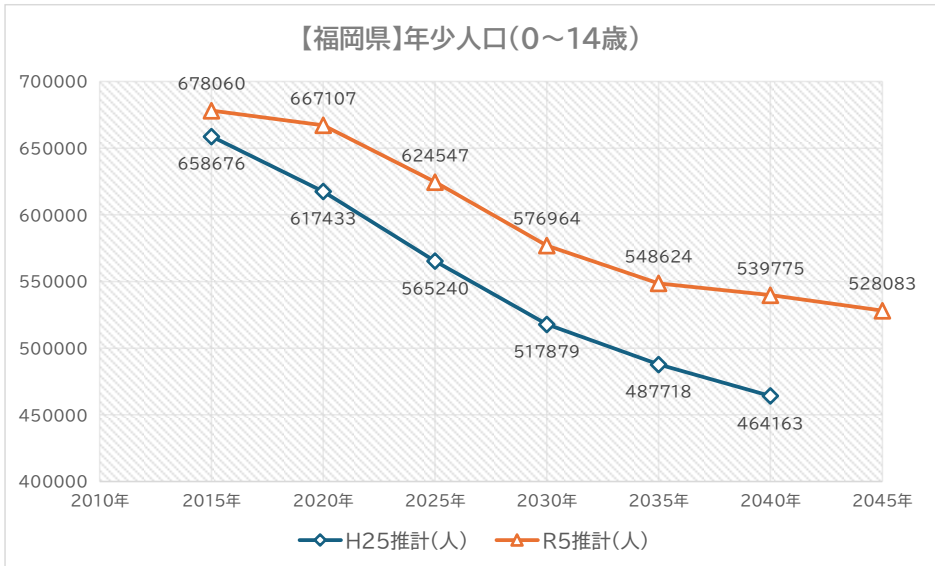
【福岡県全体】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは若干減少する見込み

【朝倉区域】

当初推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは減少する見込み

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)



年少人口については、以下の状況が読み取れる

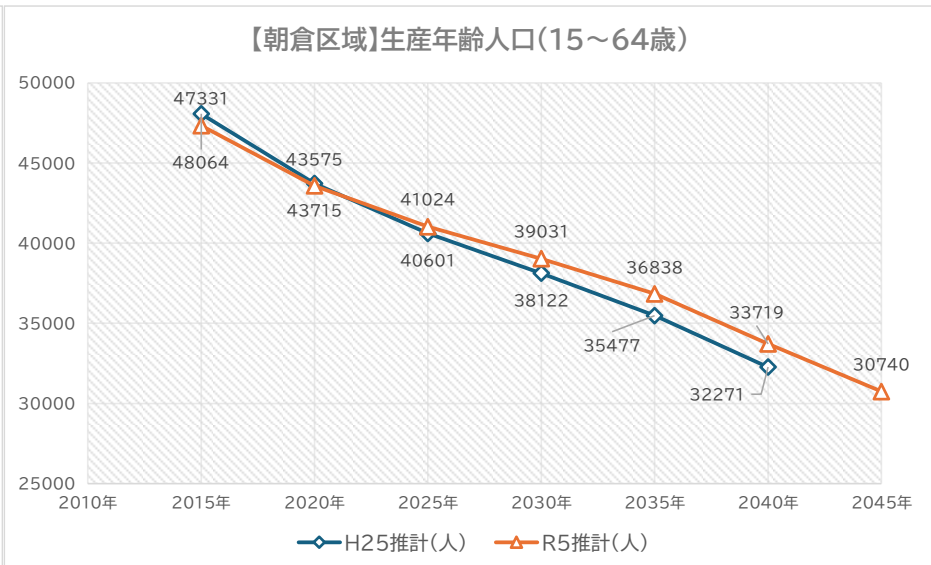
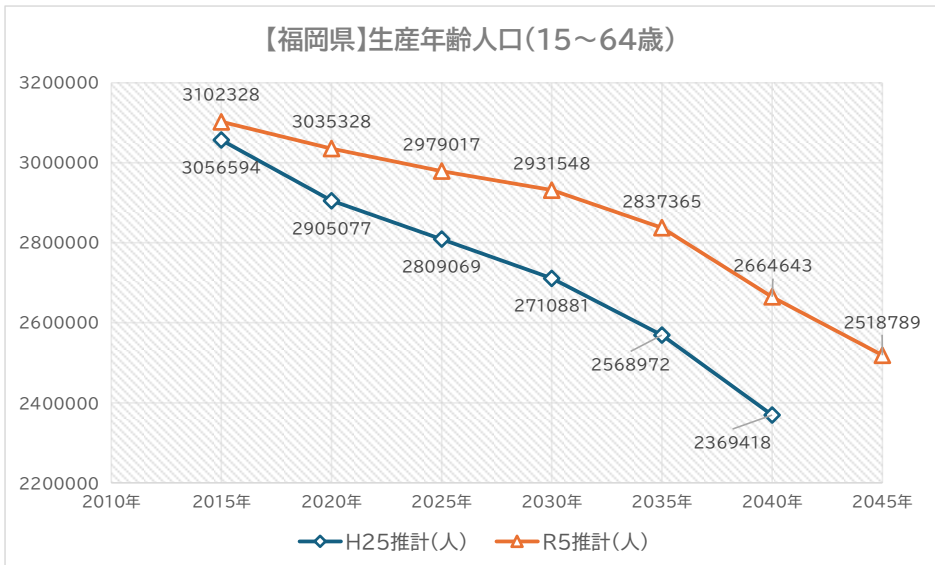
【福岡県全体】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは増加で推移する見込み

またR5推計では、2045年にかけて減少のカーブが緩やかになる見込み

【朝倉区域】

当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは増加で推移する見込み



生産年齢人口については、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

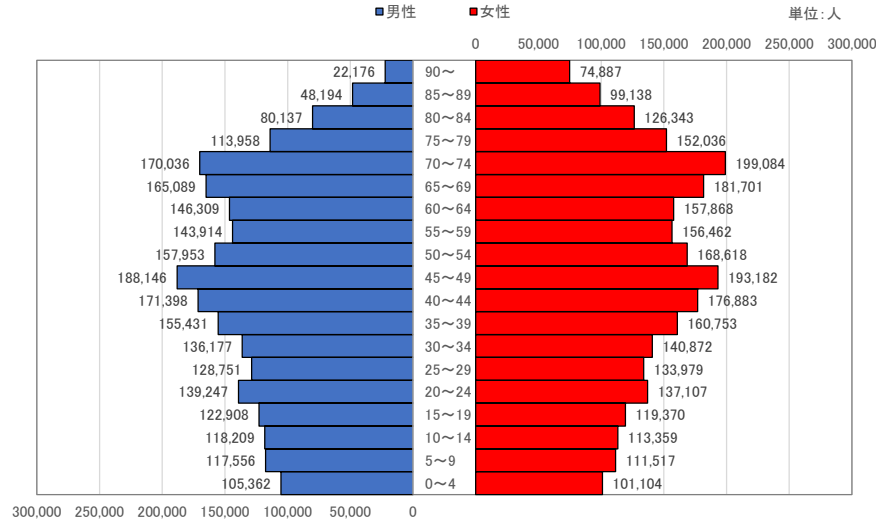
当初の推計と概ね同様の傾向で推移するが、人数そのものは増加で推移する見込み

【朝倉区域】

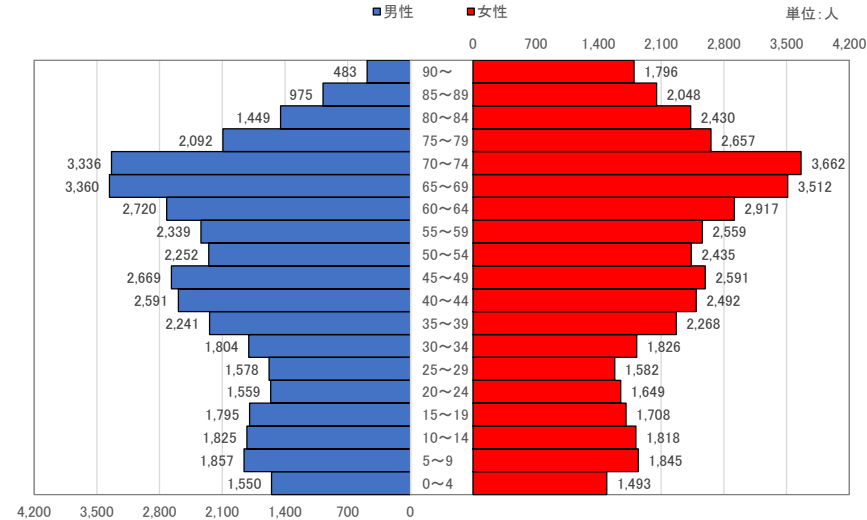
当初の推計と概ね同様の傾向で推移する見込み

5. 将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

【人口ピラミッドグラフ(福岡県)2020年】



【人口ピラミッドグラフ(朝倉)2020年】



2020(令和2)年の人口ピラミッドからは、以下の状況が読み取れる

【福岡県全体】

第1次ベビーブーム期にあたる71~74歳、第二次ベビーブーム期にあたる45~49歳で2つの人口の山があり、年齢が下がるにつれて人口が少なくなるつぼ型となっている

【朝倉区域】

福岡県全体と比較して65歳以上の老年人口のボリュームが大きく、一定の規模を維持している

2040(令和22年)の人口ピラミッドからは、以下の状況が読み取れる

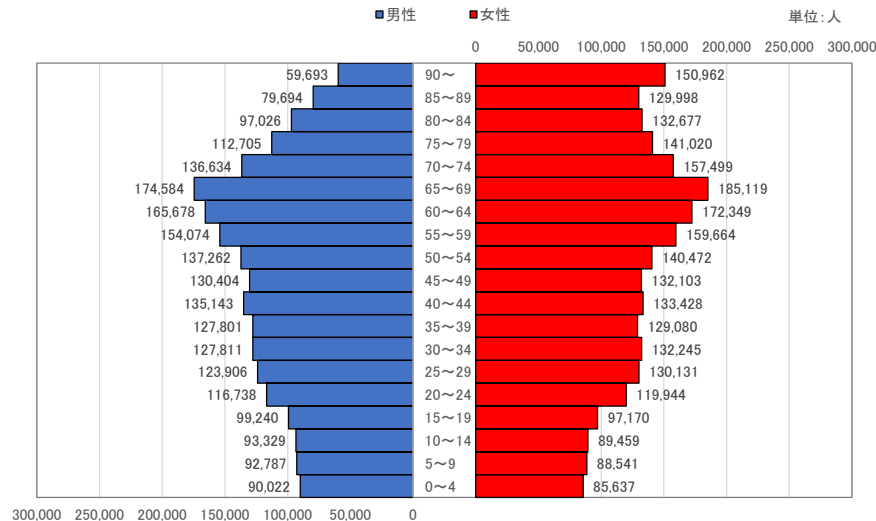
【福岡県全体】

ベビーブーム世代は90歳以上、65~69歳となり、この年代の人口ボリュームを一定程度維持しつつ推移するが、少子化が進むことによって、2020年に比べて年少人口が大きく減少し、より底が狭まったつぼ型となっている

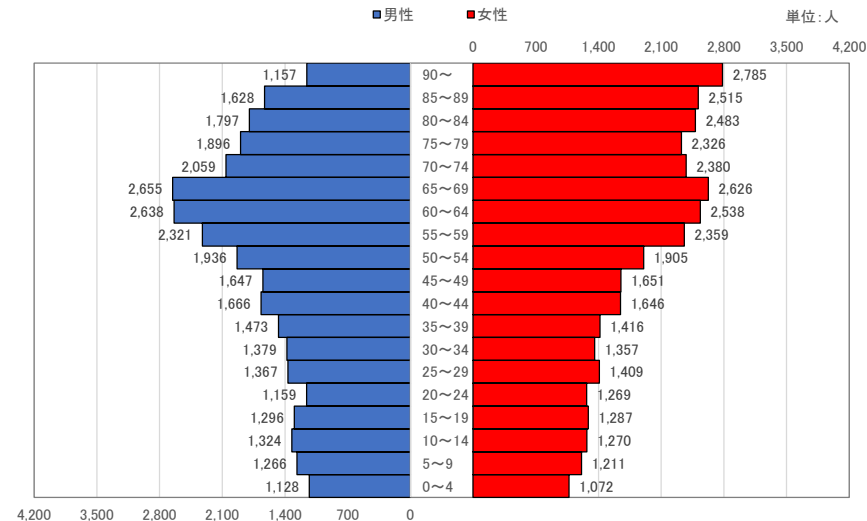
【朝倉区域】

65歳以上の老年人口が一定の規模を維持しつつ推移しているため、2020年時点に比べて少子高齢化がさらに進み、より底が狭まったつぼ型となっている

【人口ピラミッドグラフ(福岡県)2040年】



【人口ピラミッドグラフ(朝倉)2040年】



6. 市町村別将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

将来の男女5歳階級別推計人口(2020年は国勢調査による実績値)

総数	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	減少率 (20→50)
朝倉市	50,273	47,408	44,400	41,407	38,485	35,578	32,828	34.7%
筑前町	29,591	29,564	29,043	28,406	27,686	26,857	26,064	11.9%
東峰村	1,899	1,676	1,472	1,293	1,126	969	820	56.8%
朝倉計	81,763	78,648	74,915	71,106	67,297	63,404	59,712	27.0%

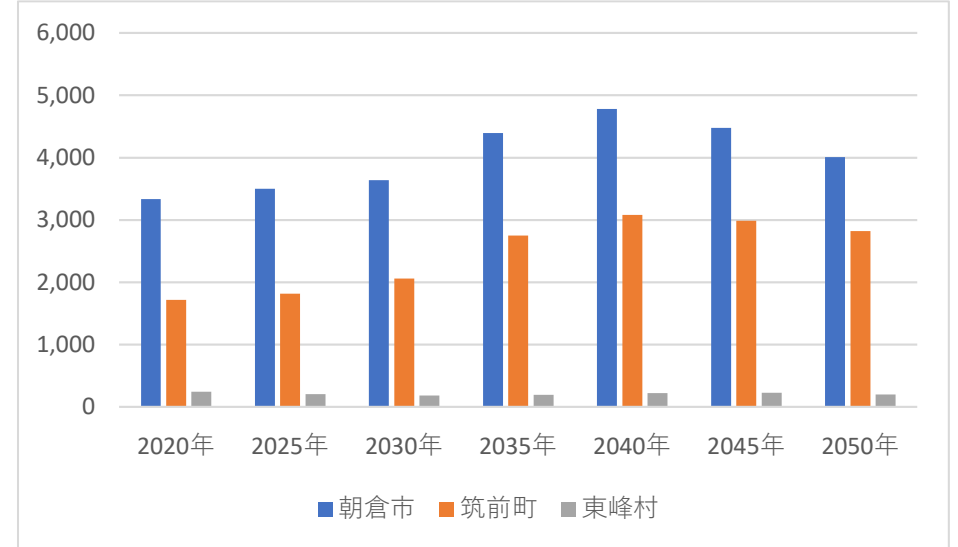
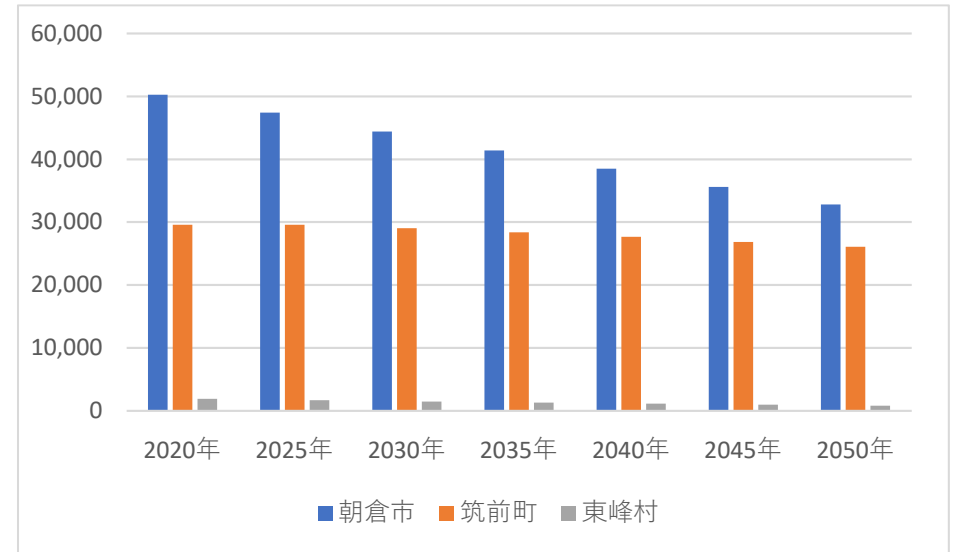
・総人口はいずれの市町村も2050年に向けて減少傾向であり、2020年から2050年の減少率は、圏域全体の人口総数で27.0%

・減少率を市町村別で見ると、東峰村は56.8%と概ね半減するが、筑前町は、11.9%と比較的減少幅が小さい

85歳以上	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	増加率 (20→40)
朝倉市	3,336	3,502	3,639	4,393	4,779	4,476	4,008	43.3%
筑前町	1,719	1,817	2,059	2,751	3,083	2,986	2,822	79.3%
東峰村	247	208	184	194	223	231	201	-9.7%
朝倉計	5,302	5,527	5,882	7,338	8,085	7,693	7,031	52.5%

・85歳以上人口は、朝倉市、筑前町は2040年にピークを迎え、その後減少していく

・増加率を市町村別で見ると、筑前町は増加率(2020→2040)が79.3%で最も高く、東峰村は-9.7%となっている



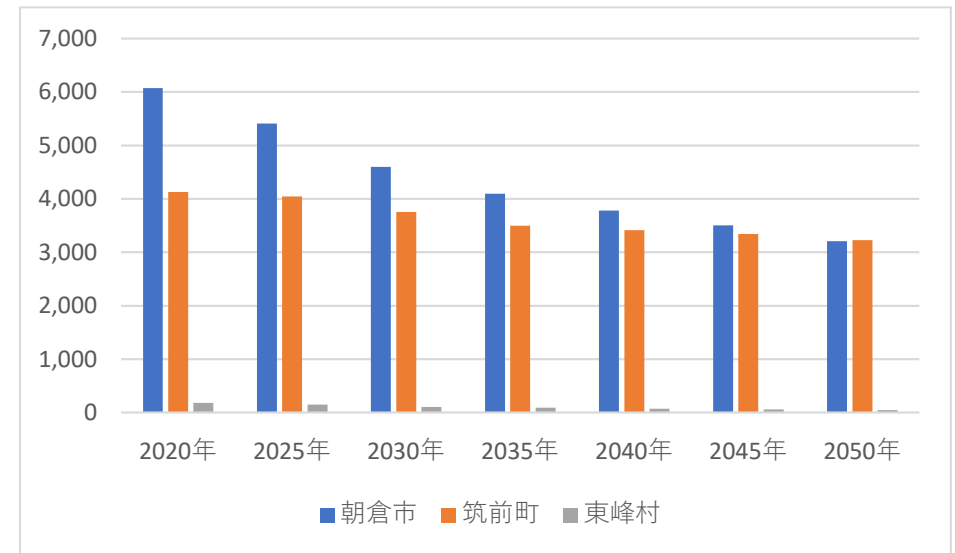
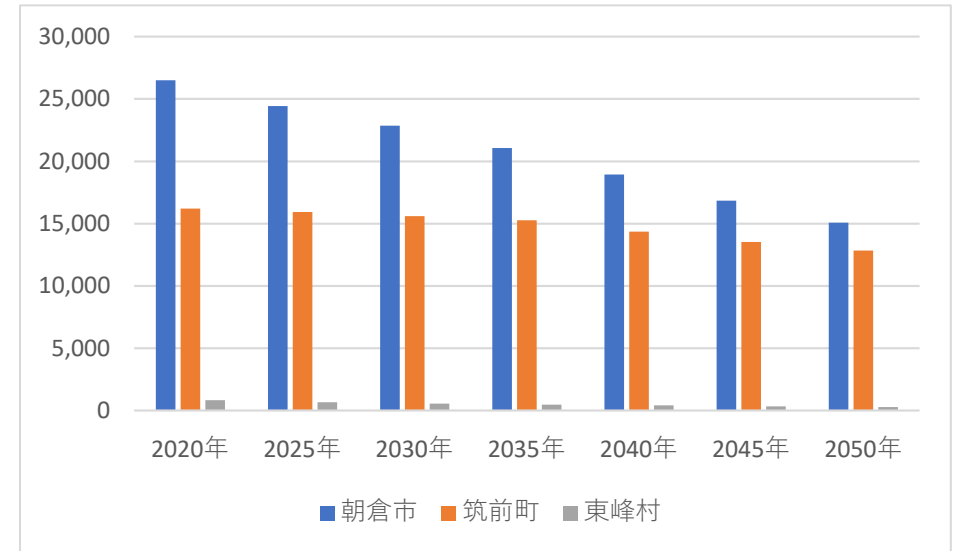
6. 市町村別将来推計人口の推移 (国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25推計、R5推計)年報」)

生産年齢人口 (15～64歳)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	減少率 (20→50)
朝倉市	26,509	24,422	22,848	21,075	18,937	16,847	15,081	43.1%
筑前町	16,220	15,922	15,608	15,270	14,364	13,540	12,834	20.9%
東峰村	846	680	575	493	418	353	287	66.1%
朝倉計	43,575	41,024	39,031	36,838	33,719	30,740	28,202	35.3%

- ・生産年齢人口は、いずれの市町村も2050年に向けて減少傾向であり、2020年から2050年の減少率は、人口総数より大きい割合となっている
- ・減少率を市町村別で見ると、東峰村で60%を超えている

年少人口 (15歳未満)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	減少率 (20→50)
朝倉市	6,076	5,408	4,597	4,099	3,781	3,505	3,210	47.2%
筑前町	4,128	4,046	3,755	3,498	3,415	3,345	3,226	21.9%
東峰村	184	148	107	91	75	61	50	72.8%
朝倉計	10,388	9,602	8,459	7,688	7,271	6,911	6,486	37.6%

- ・年少人口は、いずれの市町村も2050年に向けて減少傾向であり、2020年から2050年の減少率は、人口総数より大きい割合となっている
- ・減少率を市町村別で見ると、東峰村で70%を超えている



7. SCRの状況 (SCRが100以上の項目の割合)

Standardized Claim-data Ratio: レセプト上に現れる各診療行為の算定回数を、都道府県の年齢構成の違いを調整し、出現比として指数化したもの
 全国平均と同じ診療回数が行われた場合には指数が100となる

(県全体)	入院	外来	入院+外来	(朝倉地域)	入院	外来	入院+外来
A 基本診療科	86.8%	50.0%	60.0%	A 基本診療科	48.7%	20.0%	20.0%
B 医学管理等	76.9%	46.2%	63.6%	B 医学管理等	0.0%	18.2%	9.1%
C 在宅医療	54.5%	45.5%	40.6%	C 在宅医療	0.0%	8.6%	3.3%
D 検査	65.7%	32.8%	46.0%	D 検査	13.6%	9.7%	8.4%
E 画像	100.0%	60.0%	70.0%	E 画像	0.0%	12.5%	0.0%
F 投薬	100.0%	25.0%	33.3%	F 投薬	50.0%	0.0%	33.3%
G 注射	62.5%	50.0%	76.9%	G 注射	0.0%	41.7%	36.4%
H リハビリテーション	75.0%	62.5%	75.0%	H リハビリテーション	16.7%	50.0%	16.7%
I 精神	66.7%	71.4%	50.0%	I 精神	100.0%	75.0%	80.0%
J 処置	66.3%	46.7%	67.1%	J 処置	25.5%	29.7%	17.7%
K 手術	76.1%	45.2%	73.6%	K 手術	19.1%	37.2%	22.8%
L 麻酔	60.0%	42.9%	58.3%	L 麻酔	16.7%	20.0%	0.0%
M 放射線治療	100.0%	40.0%	100.0%	M 放射線治療	-	-	-
N 病理診断	100.0%	42.9%	85.7%	N 病理診断	16.7%	0.0%	0.0%

・SCRが100以上の項目数は、以下のとおり(A~Nの全数)

[県全体]入院:545(73.3%)、外来:232(43.5%)、入院+外来:255(60.7%)

[朝倉]入院:81(20.9%)、外来:80(23.1%)、入院+外来51(14.9%)

・A~Nの分野ごとに見ると、朝倉区域では「精神」が突出して高く、「投薬」の割合も高い

7. SCRの状況 (SCRが90未満の項目の割合)

Standardized Claim-data Ratio: レセプト上に現れる各診療行為の算定回数を、都道府県の年齢構成の違いを調整し、出現比として指数化したもの
 全国平均と同じ診療回数が行われた場合には指数が100となる

(県全体)	入院	外来	入院+外来	(朝倉地域)	入院	外来	入院+外来
A 基本診療科	10.3%	33.3%	20.0%	A 基本診療科	46.2%	40.0%	60.0%
B 医学管理等	23.1%	46.2%	27.3%	B 医学管理等	100.0%	72.7%	90.9%
C 在宅医療	36.4%	36.4%	37.5%	C 在宅医療	100.0%	82.9%	83.3%
D 検査	24.1%	47.0%	38.1%	D 検査	78.4%	83.5%	84.1%
E 画像	0.0%	20.0%	20.0%	E 画像	85.7%	75.0%	75.0%
F 投薬	0.0%	75.0%	33.3%	F 投薬	50.0%	50.0%	33.3%
G 注射	31.3%	31.3%	15.4%	G 注射	100.0%	58.3%	63.6%
H リハビリテーション	25.0%	25.0%	25.0%	H リハビリテーション	83.3%	50.0%	66.7%
I 精神	33.3%	21.4%	37.5%	I 精神	0.0%	25.0%	20.0%
J 処置	25.0%	42.2%	22.9%	J 処置	70.6%	64.1%	71.0%
K 手術	13.7%	43.9%	15.5%	K 手術	76.3%	57.7%	75.9%
L 麻酔	33.3%	57.1%	41.7%	L 麻酔	83.3%	80.0%	90.0%
M 放射線治療	0.0%	60.0%	0.0%	M 放射線治療	-	-	-
N 病理診断	0.0%	28.6%	0.0%	N 病理診断	83.3%	100.0%	83.3%

・SCRが90を下回る項目数は、以下のとおり(A~Nの全数)

[県全体]入院:137(18.4%)、外来:226(42.4%)、入院+外来:112(26.7%)

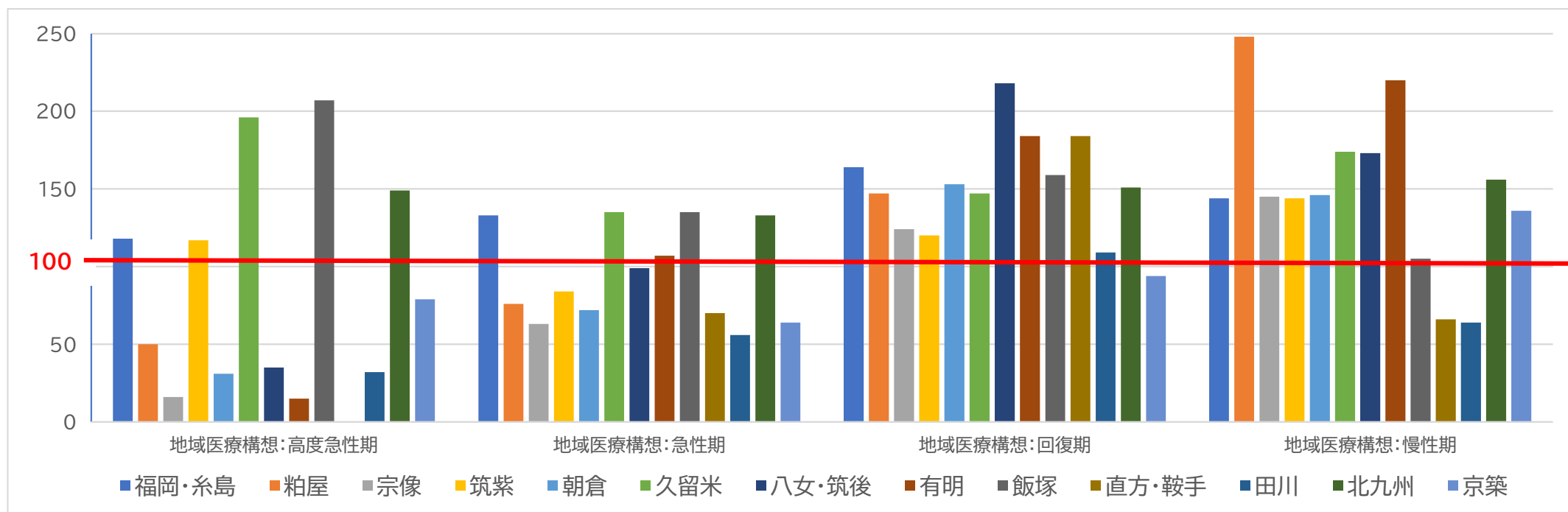
[朝倉]入院:288(74.4%)、外来:243(70.0%)、入院+外来:265(77.3%)

・朝倉区域では、多くの分野で90を下回る項目が多い傾向がある

7. SCRの状況 (各圏域ごとの比較①)

※ 内閣府令和4年度診療分・二次医療圏別診療行為特別集計(東北大学藤森教授)
 (独自の指標を作成し、それぞれ関連する診療行為コードを集計し、数値化したもの)

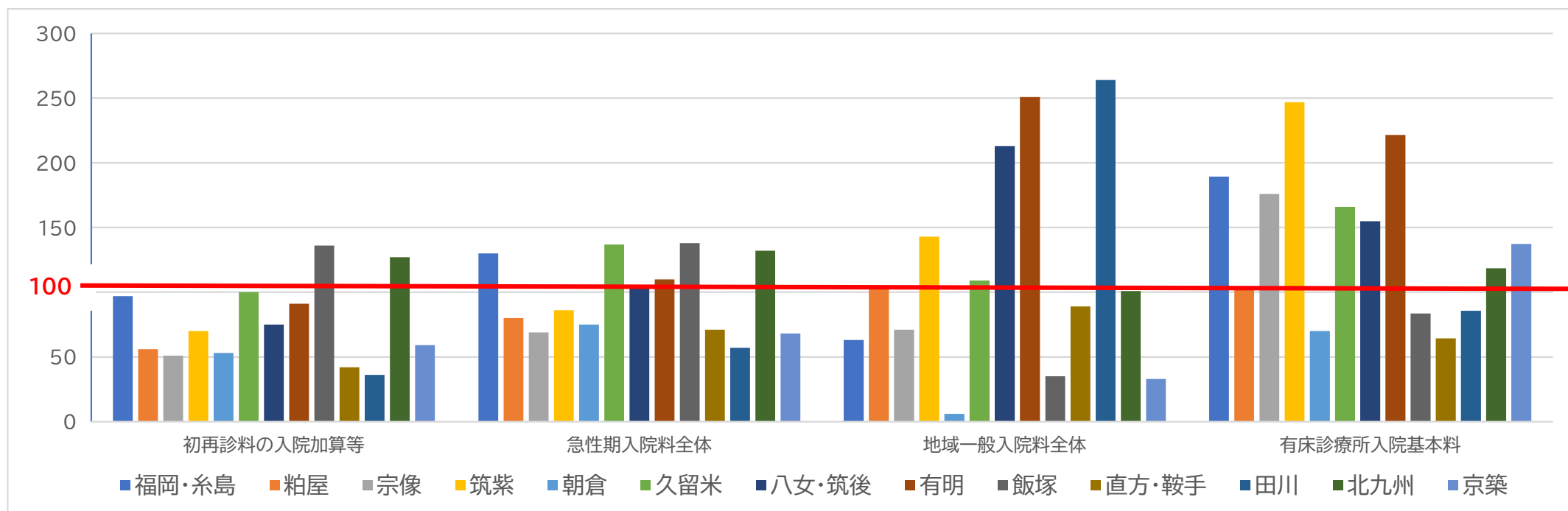
	福岡・糸島	粕屋	宗像	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後	有明	飯塚	直方・鞍手	田川	北九州	京築
地域医療構想:高度急性期	118	50	16	117	31	196	35	15	207		32	149	79
地域医療構想:急性期	133	76	63	84	72	135	99	107	135	70	56	133	64
地域医療構想:回復期	164	147	124	120	153	147	218	184	159	184	109	151	94
地域医療構想:慢性期	144	248	145	144	146	174	173	220	105	66	64	156	136



7. SCRの状況 (各圏域ごとの比較②)

※ 内閣府令和4年度診療分・二次医療圏別診療行為特別集計(東北大学藤森教授)
 (独自の指標を作成し、それぞれ関連する診療行為コードを集計し、数値化したもの)

	福岡・糸島	粕屋	宗像	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後	有明	飯塚	直方・鞍手	田川	北九州	京築
初再診料の入院加算等	97	56	51	70	53	100	75	91	136	42	36	127	59
急性期入院料全体	130	80	69	86	75	137	105	110	138	71	57	132	68
地域一般入院料全体	63	103	71	143	6	109	213	251	35	89	264	101	33
有床診療所入院基本料	190	103	176	247	70	166	155	222	84	64	86	119	137

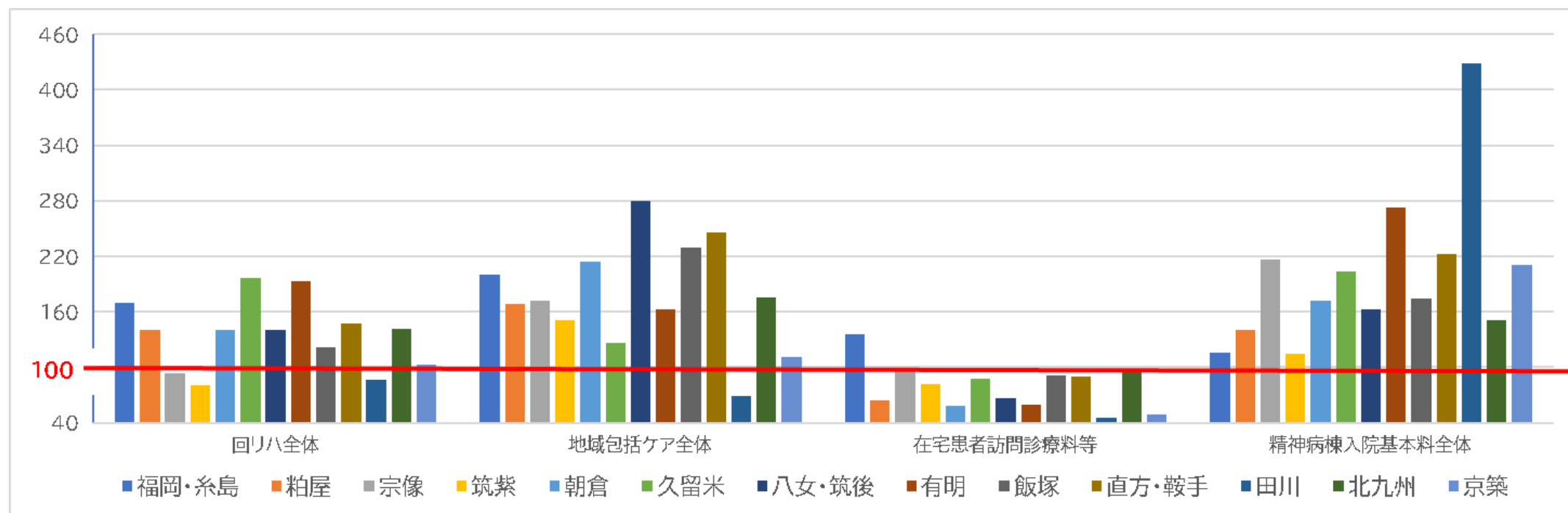


7. SCRの状況 (各圏域ごとの比較③)

※ 内閣府令和4年度診療分・二次医療圏別診療行為特別集計(東北大学藤森教授)

(独自の指標を作成し、それぞれ関連する診療行為コードを集計し、数値化したもの)

	福岡・糸島	粕屋	宗像	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後	有明	飯塚	直方・鞍手	田川	北九州	京築
回り八全体	170	140	94	80	140	196	140	193	122	147	86	141	103
地域包括ケア全体	200	168	172	151	214	126	280	163	229	246	69	175	111
在宅患者訪問診療料等	136	64	99	82	58	88	66	60	91	90	46	98	49
精神病棟入院基本料全体	116	140	216	114	172	204	162	273	174	222	429	151	211

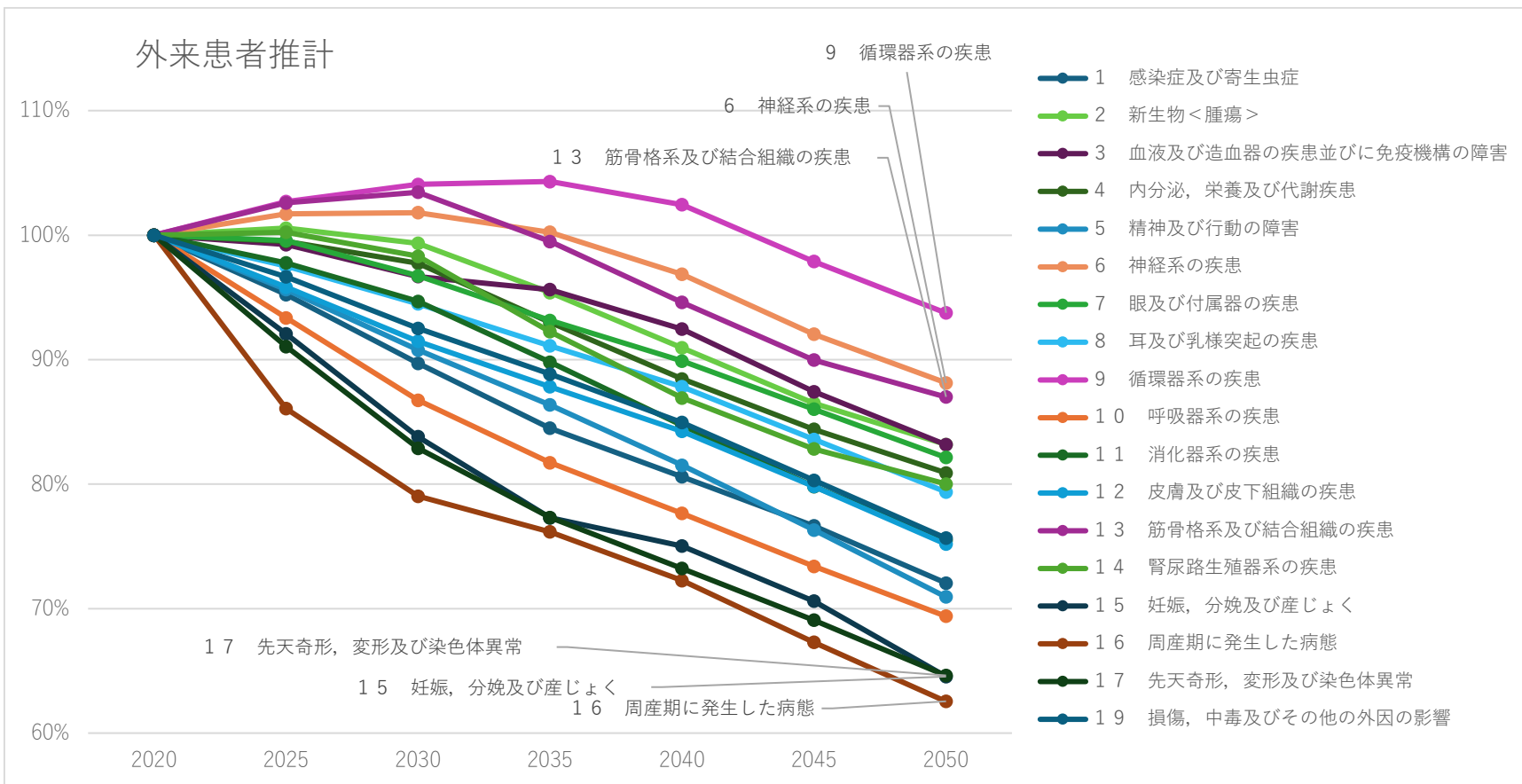


8. 患者推計 (産業医科大学:地域別人口変化分析ツールAll Japan Areal Population-change Analyses(AJAPA))

朝倉区域(市区町村別の患者推計は、別紙資料1を参照)

【外来患者推計】

循環器系、神経系は、2035年頃まで、骨格系は2030年にピークを迎え、以降は減少していく見込み
それ以外については、2025年以降減少していく見込み



2020年を基準とした外来患者数は、2050年に全ての疾病分類系列で100%を下回っており、今後は外来患者数は減り続けるものと思料

・比較的伸び率の下降幅が小さいのは、次の疾病である

系列9〔循環器系の疾患〕

(対応する診療科)

→循環器内科、心臓血管外科

系列6〔神経系の疾患〕

(対応する診療科)

→神経内科、脳神経外科

系列13〔筋骨格系及び結合組織の疾患〕

(対応する診療科)

→外科、整形外科、リウマチ科

・伸び率の下降幅が大きいのは、次の疾病である

系列16〔周産期に発生した病態〕

系列15〔妊娠、分娩及び産じょく〕

(対応する診療科)

→産婦人科、産科、婦人科

系列17〔先天奇形、変形及び染色体異常の疾患〕

(対応する診療科)

→小児科、小児外科

系列10〔呼吸器系の疾患〕

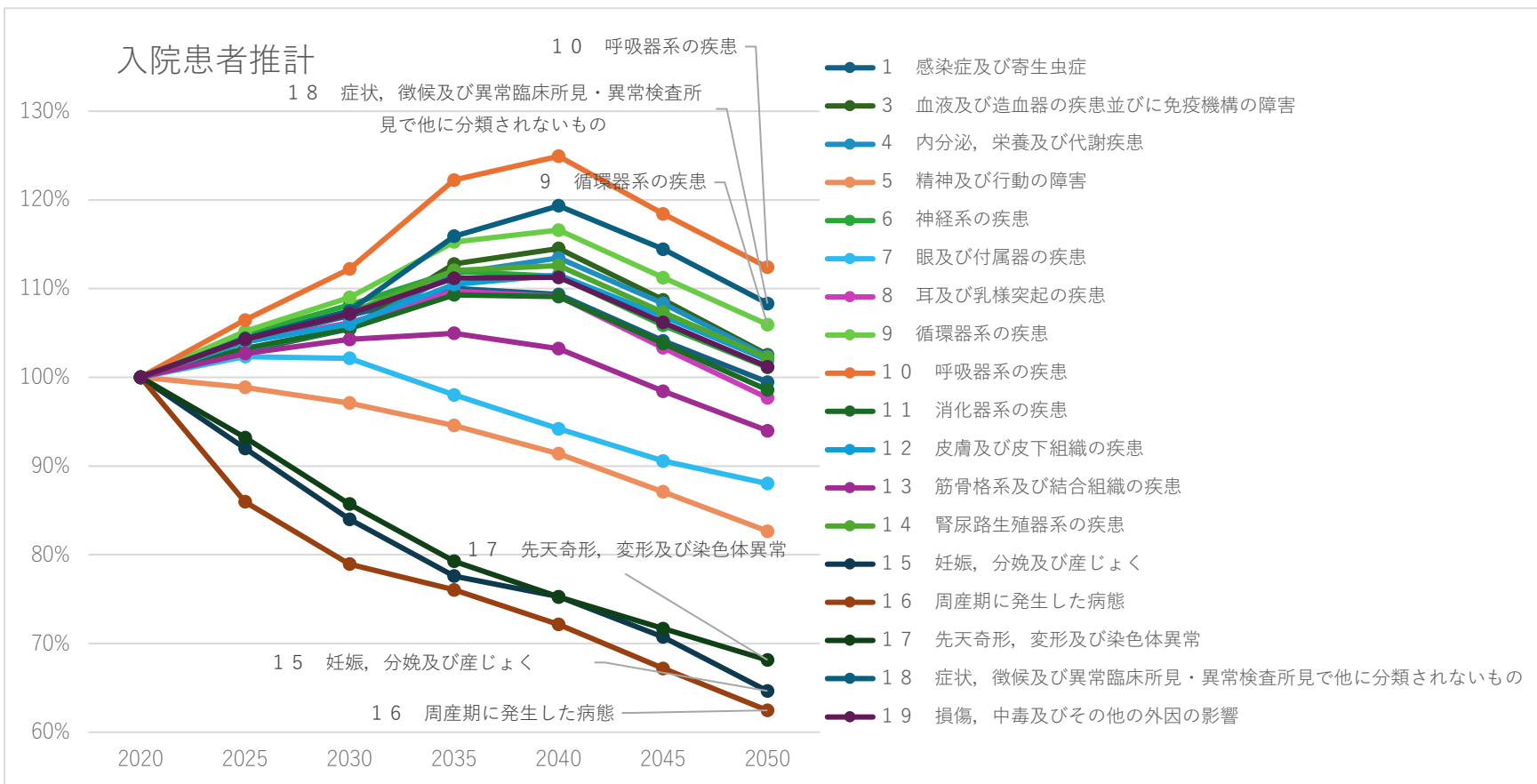
(対応する診療科)

→呼吸器内科、呼吸器外科

8. 患者推計 (産業医科大学:地域別人口変化分析ツールAll Japan Areal Population-change Analyses(AJAPA))

【入院患者推計】

周産期、妊娠・分娩系、精神系、先天性疾患計は、2020年以降減少していく見込み
それ以外は増加傾向にあるが、2040年をピークに減少に転じる見込み



2020年を基準とした入院患者数は、多くの疾病で、2050年時点でも100%を上回っており、今後も入院患者は増え続けるものと思料

・2050年時点で、伸び率が大きいのは、次の疾病である

系列10〔呼吸器系の疾患〕
(対応する診療科)
→呼吸器内科、呼吸器外科
系列9〔循環器系の疾患〕
(対応する診療科)
→循環器内科、心臓血管外科

・2050年時点で、伸び率の下降幅が大きいのは、次の疾病である

系列16〔周産期に発生した病態〕
系列15〔妊娠、分娩及び産じょく〕
→産婦人科、産科、婦人科
系列17〔先天奇形、変形及び染色体異常の疾患〕
(対応する診療科)
→小児科、小児外科
系列5〔精神及び行動の障害〕
(対応する診療科)
→精神科、心療内科
系列7〔眼及び付属器の疾患〕
(対応する診療科)
→眼科

9. 医療従事者数〔医師〕（令和4年「医師・歯科医師・薬剤師調査」）※人口：福岡県人口移動調査（R4.12.1）

		医師数	人口10万人当たり
朝倉市		127	259.0
	病院	66	134.6
	診療	61	124.4
筑前町		28	93.8
	病院	13	43.6
	診療	15	50.3
東峰村		1	55.2
	病院	-	-
	診療	1	55.2
朝倉 計		156	193.3
	病院	79	97.9
	診療	77	95.4
福岡県 計		15,968	312.0
	病院	11,025	215.4
	診療	4,943	96.6

◆医師偏在指標及び県内・全国順位（県内二次保健医療圏、周産期医療圏、小児科）

		医師偏在指標		
		数値	県内順位	全国順位
医師全体	福岡県	313.3	—	3/47
	福岡・糸島	399.0	2/13	6/330
	粕屋	220.7	7/13	105/330
	筑紫	224.7	6/13	97/330
	朝倉	202.0	9/13	152/330
	久留米	407.8	1/13	4/330
	飯塚	341.3	3/13	21/330
	田川	197.4	11/13	171/330
産科	福岡県	11.0	—	12/47
	福岡	10.4	3/4	94/258
	筑後	11.6	2/4	71/258
	筑豊	8.7	4/4	147/258
	北九州	12.7	1/4	53/258
小児科	福岡県	122.0	—	16/47
	福岡・糸島	128.1	3/13	75/303
	粕屋	81.7	11/13	250/303
	筑紫	85.0	10/13	228/303
	朝倉	94.9	8/13	189/303
	久留米	170.3	1/13	13/303
	飯塚	124.0	5/13	88/303
田川	119.8	6/13	103/303	

「福岡県医師確保計画（令和6年3月）「医師偏在指標及び県内・全国順位」から抜粋」

- ・人口10万人当たりの医師数で100を切っているのは、筑前町、東峰村
- ・医師偏在指標を見ると、朝倉区域は医師全体の県内順位が9位、小児科医師が県内順位の8位でやや低位にある

9. 医療従事者数〔医師〕 診療所開設者年齢ピラミッド「公衆衛生等に係る医療の提供状況(令和5年9月福岡県医療指導課)」

年齢階級	粕屋	筑紫	朝倉	久留米	飯塚	田川	福岡県
90 -	0	0	0	0	2	0	23
85 - 89	1	2	0	5	1	2	43
80 - 84	2	5	0	9	4	2	74
75 - 79	4	12	3	32	7	6	208
70 - 74	18	31	7	52	15	13	466
65 - 69	24	41	3	44	24	15	550
60 - 64	30	34	11	34	17	11	544
55 - 59	18	27	6	33	10	3	419
50 - 54	11	25	2	28	11	10	321
45 - 49	13	22	4	29	5	2	243
40 - 44	8	11	3	7	3	1	121
35 - 39	0	3	0	3	0	1	31
30 - 34	0	0	0	0	0	0	9
- 29	0	0	0	0	0	0	1
Total	129	213	39	276	99	66	3,053

・診療所開設者の年齢ピラミッドを見ると、朝倉区域では「60-64」がボリュームゾーンとなっている

・医師不足や後継者確保(継承)の困難さを鑑みると、10年後、20年後の体制を考えておく必要があるのではないか

10. 医療従事者数〔医師・診療科〕（令和4年「医師・歯科医師・薬剤師調査」）

外来 入院		減少 減少	減少 減少	減少 減少	減少	減少 減少	減少 減少	減少 減少	減少	
	内科	整形外科	精神科	消化器内科 (胃腸内科)	循環器内科	外科	小児科	眼科	脳神経外科	放射線科
朝倉市	30	13	6	10	9	10	8	6	4	4
筑前町	13	2	7	1	1	-	1	1	1	1
東峰村	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝倉	44	15	13	11	10	10	9	7	5	5

外来医療計画において、継承困難としている診療所の診療科目については、「内科」、「消化器内科・消化器科」、「胃腸内科・胃腸科」等があります

外来 入院		減少 増加	減少	減少	減少	減少 減少		減少	減少	減少
	呼吸器内科	糖尿病内科 (代謝内科)	泌尿器科	耳鼻 いんこう科	麻酔科	消化器外科 (胃腸外科)	肛門外科	腎臓内科	脳神経内科	皮膚科
朝倉市	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1
筑前町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝倉	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1

外来 入院		減少	減少 減少	減少 減少	減少	
	心臓血管外科	小児外科	産科	婦人科	リハビリテー ション科	
朝倉市	1	1	1	1	1	1
筑前町	-	-	-	-	-	-
東峰村	-	-	-	-	-	-
朝倉	1	1	1	1	1	1

※スライド21・22を基に、今後患者が増えていく見込みの診療科（入院・外来）は「増加」、減少していく見込みの診療科は「減少」としている

11. 医療従事者数〔常勤医師①〕（令和5年度「病床機能報告」）

市町村名	医療機関名	医師数	常勤医師割合	(参考) 看護師数	(参考) 准看護師数	許可病床数					病床稼働率((在棟・在院患者延べ数+退棟・退院患者数)/(許可病床数*365))	救急車受入数(※)		
						高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中				
朝倉市	朝倉医師会病院		36.8	82.0%	216.4	0	6	146	52	20	0	92.9%	1,485	救急告示
		常勤	30		198	0								
		非常勤	6.8		18.4	0								
	医療法人社団医王会 朝倉健生病院		22	82.0%	86.1	23.2	0	110	40	0	0	82.4%	342※	
		常勤	18		80	22								
		非常勤	4		6.1	1.2								
	甘木中央病院		18.5	49.0%	84.1	13.7	0	60	88	32	0	85.8%	421	
		常勤	9		81	12								
		非常勤	9.5		3.1	1.7								
	医療法人かつき会 香月病院		4.5	44.0%	21.4	4.2	0	0	0	60	0	89.5%	*	
		常勤	2		21	4								
		非常勤	2.5		0.4	0.2								
	クリニックコスモ		1.1	91.0%	1.8	5	0	0	0	19	0	72.4%	0	
		常勤	1		1	5								
非常勤		0.1	0.8		0									
森山内科		2.4	42.0%	13	8	0	0	0	19	0	4.1%	*		
	常勤	1		13	8									
	非常勤	1.4		0	0									
富田産婦人科医院		2	100.0%	10.5	5	0	12	0	0	0	56.7%	*		
	常勤	2		9	5									
	非常勤	0		1.5	0									
福嶋眼科医院		1	100.0%	0.1	0	0	10	0	0	0	3.5%	0		
	常勤	1		0	0									
	非常勤	0		0.1	0									
栗林皮膚泌尿器科医院		1	100.0%	1	2	0	0	0	0	4	0.0%	0		
	常勤	1		1	2									
	非常勤	0		0	0									

※医療法人社団医王会朝倉健生病院の「救急車受入数」は報告値から修正

11. 医療従事者数〔常勤医師②〕（令和5年度「病床機能報告」）

市町村名	医療機関名	医師数		常勤医師割合	(参考)看護師数	(参考)准看護師数	許可病床数					病床稼働率((在棟・在院患者延べ数+退棟・退院患者数)/(許可病床数*365))	救急車受入数(※)
							高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中		
筑前町	医療法人日新会 稲永病院		0	-	32.7	13.4	0	0	0	160	0	92.8%	0
		常勤	0		32	13							
		非常勤	0		0.7	0.4							
筑前町	太刀洗病院		6.5	62.0%	30.1	6.6	0	0	0	120	0	26.8%	0
		常勤	4		26	5							
	非常勤	2.5	4.1	1.6									
	医療法人藤井整形外科内科医院		0	-	0	0	0	0	0	0	19	0.0%	*
常勤		0	0		0								
		非常勤	0	0	0								

※月別の件数に1件~9件の数値がある場合、「*」表記

12. 医療介護資源の状況 (日医総研ワーキングペーパー(2023年4月第6版))

●【地域の概要】

一人当たり医療費(国保):410千円(偏差値58)

一人当たり介護給付費:267千円(偏差値51)

●【医療の現状】

病院数:8、人口10万人当たり9.8(偏差値58)

診療所数:75、人口10万人当たり92(偏差値55)

総医師数:212、人口10万人当たり260(偏差値45)

専門医数

小児科:5、人口10万人当たり6.1(偏差値40)

産婦人科:1、人口10万人当たり1.2(偏差値31)

総合内科:12、人口10万人当たり14.7(偏差値41)

看護師数:862、人口10万人当たり1,054(偏差値55)

●【介護施設や在宅ケアの現状】

高齢者施設・住宅定員数:1,524、75歳以上1,000人当たり109(偏差値58)

(うち、介護保険施設定員:1,208、75歳以上1,000人当たり87(偏差値72))

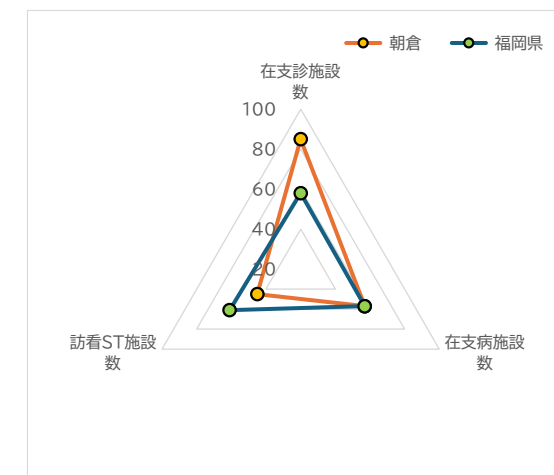
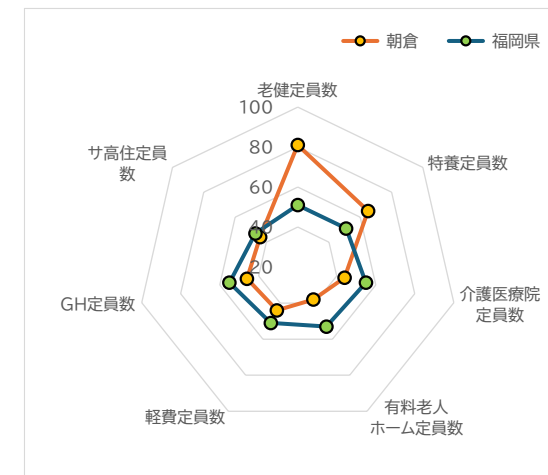
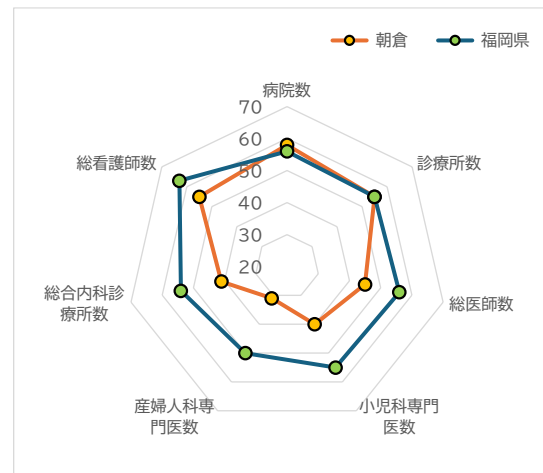
(うち、高齢者住宅定員:316、75歳以上1,000人当たり23(偏差値36))

介護職員数:1,226、75歳以上1,000人当たり88(偏差値63)

施設別定員数:老健施設548(偏差値81)、特養660(偏差値65)、介護医療院0(偏差値44)

(75歳以上1,000人当たり)有料3.1(偏差値38)、軽費0(偏差値44)、GH9(偏差値46)、サ高住10.6(偏差値44)

在宅ケア(施設数):在支診31(偏差値85)、在支病2(偏差値57)、訪看ST9(偏差値45)



12. 医療介護資源の状況 (厚生労働省「医療施設調査」)

●医療施設数(病院、一般診療所H28→R5推移)(在宅療養支援診療所H26→R5推移)(訪問看護STはH29→R7推移)

医療施設数等	病院	一般診療所		訪問看護ステーション
		在宅療養支援診療所		
福岡県	461 → 453	4,654 → 4,806	866 → 767	493 → 1,086
粕屋	26 → 26	174 → 192	29 → 28	24 → 36
筑紫	27 → 27	293 → 313	45 → 39	35 → 73
朝倉	8 → 8	74 → 75	34 → 30	4 → 12
久留米	49 → 47	449 → 431	106 → 81	51 → 115
飯塚	22 → 20	167 → 164	20 → 22	20 → 45
田川	16 → 16	108 → 113	17 → 17	24 → 47

出所:病院、診療所数は厚生労働省「医療施設調査(動態)(平成28年10月1日現在)」、「医療施設調査(静態・動態)(令和5年10月1日現在)」

出所:在宅療養支援診療所数は厚生労働省「医療施設調査(静態・動態)(平成26年、令和5年10月1日現在)」

出所:訪問看護ステーション数は県医療指導課データ

※1 在宅療養支援診療所数は、平成26年4月、令和5年4月現在診療報酬施設基準による

※2 訪問看護ステーションは、平成29年4月1日現在、令和7年7月1日現在の介護保険法に基づく指定数

●小児科標榜医療機関数(H26→R2推移)

	医療機関数			小児人口10万人対 医療機関数
	病院	診療所		
福岡県	361 → 361	96 → 97	265 → 264	53.4 → 55.9
粕屋	18 → 19	5 → 5	13 → 14	38.3 → 40.0
筑紫	29 → 27	6 → 5	23 → 22	43.0 → 41.0
朝倉	8 → 7	2 → 2	6 → 5	75.7 → 67.4
久留米	35 → 33	8 → 7	27 → 26	57.1 → 57.6
飯塚	14 → 16	5 → 6	9 → 10	62.3 → 73.7
田川	10 → 9	6 → 5	4 → 4	62.7 → 62.5

出所:「医療施設調査」(平成26年、令和2年)

※診療所は、「小児科が主たる診療科」+「小児科単科」。

●市町村別医療施設数(病院、一般診療所H28→R5推移)

	病院数		一般診療所数	
	平成28年	令和5年	平成28年	令和5年
朝倉市	5 →	5	52 →	53
筑前町	3 →	3	17 →	18
東峰村	- →	-	5 →	4
朝倉	8 →	8	74 →	75

●分娩取扱医療機関数(H26→R5推移)

医療施設数等	病院	診療所
福岡県	34 → 28	88 → 63
粕屋	1 → 1	5 → 5
筑紫	1 → 1	7 → 5
朝倉	0 → 0	1 → 1
久留米	3 → 3	14 → 11
飯塚	2 → 2	2 → 2
田川	2 → 2	0 → 0

出所:厚生労働省「医療施設調査(静態・動態)(各年10月1日現在)」(平成26年、令和5年)による

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（日医総研ワーキングペーパー（2023年4月第6版））

●看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)※令和2年10月

二次医療圏	総看護師数	人口 10万人当たり	病院 看護師数	人口 10万人当たり	診療所 看護師数	人口 10万人当たり
福岡・糸島	20,608	1,204	15,650	915	4,958	290
粕屋	3,095	1,057	2,496	852	599	204
宗像	1,595	972	1,200	731	395	241
筑紫	3,520	801	2,567	584	953	217
朝倉	862	1,054	652	797	210	257
久留米	6,953	1,535	5,552	1,226	1,401	309
八女・筑後	1,831	1,415	1,407	1,087	424	327
有明	3,687	1,742	2,927	1,383	760	359
飯塚	2,903	1,661	2,340	1,340	562	322
直方・鞍手	1,234	1,178	952	909	282	270
田川	1,784	1,512	1,377	1,167	407	345
北九州	16,061	1,500	12,881	1,203	3,179	297
京築	1,912	1,043	1,379	752	533	291
福岡県	66,044	1,286	51,381	1,001	14,663	286
全国	1,164,671	923	918,226	728	246,444	195

出典：厚生労働省「令和2年医療施設静態調査」

・総看護師数の人口10万人当たり人数を見ると、朝倉区域は、県全体よりも少なく、全国よりは多い状況となっている

・勤務場所別で見ると、人口10万人当たり病院看護師は、県全体より少なく、全国より多い状況となっている

・人口10万人当たり診療所看護師は、県全体よりも少なく、全国より多いという状況である

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（日医総研ワーキングペーパー（2023年4月第6版））

●介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）（常勤換算）※令和4年5月 常勤換算

二次医療圏	介護サービス 従事看護師数	75歳以上 1,000人当たり	看護師数 (施設)	75歳以上 1,000人当たり	看護師数 (訪問)	75歳以上 1,000人当たり
福岡・糸島	2,649	14.4	1,415	7.7	1235	6.7
粕屋	557	16.8	445	13.4	112	3.4
宗像	227	9.5	162	6.8	65	2.7
筑紫	498	9.8	269	5.3	228	4.5
朝倉	151	10.8	114	8.2	37	2.6
久留米	796	11.9	416	6.2	380	5.7
八女・筑後	256	11.7	174	8.0	82	3.8
有明	469	11.5	360	8.9	109	2.7
飯塚	370	12.7	255	8.8	115	3.9
直方・鞍手	307	15.6	194	9.8	114	5.8
田川	394	17.4	220	9.7	175	7.7
北九州	1,883	10.5	1,179	6.6	704	3.9
京築	394	12.9	294	9.6	101	3.3
福岡県	8,952	12.5	5,497	7.7	3455	4.8
全国	188,635	10.1	119,762	6.4	68873	3.7

出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム」（令和4年5月）

・介護サービス従事看護師数の75歳以上1,000人当たり人数を見ると、朝倉区域は、県全体よりも少なく、全国と概ね同程度の状況となっている

・75歳以上1,000人当たり従事者数を勤務場所別で見ると、介護施設は8.2人と県全体、全国よりも多い状況となっている

・訪問看護は、2.6人と県全体、全国よりも少ない状況となっている

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（日医総研ワーキングペーパー（2023年4月第6版））

●介護サービス従事介護職員数（介護施設等、在宅介護）※令和4年5月 常勤換算

二次医療圏	介護サービス従事 介護職員数	75歳以上 1,000人当たり	介護職員数 (介護施設等)	75歳以上 1,000人当たり	介護職員数 (在宅)	75歳以上 1,000人当たり
福岡・糸島	16,014	87.0	13,038	71.0	2976	16.2
粕屋	2,315	70.0	2,038	62.0	277	8.4
宗像	1,758	74.0	1,559	66.0	199	8.4
筑紫	3,653	72.0	3,131	62.0	523	10.3
朝倉	1282	92.0	1226	88.0	56	4.0
久留米	6,182	93.0	5,517	83.0	665	10.0
八女・筑後	2,199	101.0	1,964	90.0	235	10.8
有明	3,884	96.0	3,376	83.0	508	12.5
飯塚	2,833	97.0	2,361	81.0	472	16.2
直方・鞍手	2,005	102.0	1753	89.0	252	12.8
田川	3,189	141.0	2,600	115.0	588	26.0
北九州	15,195	84.0	12,896	72.0	2299	12.8
京築	2,565	84.0	2,252	73.0	313	10.2
福岡県	63,075	88.0	53,711	75.0	9364	13.1
全国	1,556,622	84.0	1,327,531	71.0	229090	12.3

出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム」（令和4年5月）

・介護サービス従事介護職員数の75歳以上1,000人当たり人数を見ると、朝倉区域は、県全体、全国よりも多い状況となっている

・75歳以上1,000人当たり人数を勤務場所別で見ると、介護施設等は88.0人と県全体、全国よりも多い状況となっている

在宅については、4.0人と県全体、全国よりも少ない状況となっている

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（「衛生行政報告例」）

●就業場所別の看護師数

福岡県	看護師								
	実数	人口10万人 当たり	割合	就業場所別 二次医療圏ごとの就業場所別人数(斜体)は推計値					
				病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護保険 施設等	社会福祉 施設	その他
	65,134	1,273.1		47,399	9,078	3,126	3,279	419	1,833
福岡・糸島	20,818	1,202.5	32.0%	15,150	2,901	999	1,048	134	586
粕屋	3,176	1,083.5	4.9%	2,311	443	152	160	20	89
宗像	1,740	1,050.4	2.7%	1,266	243	84	88	11	49
筑紫	3,795	859.9	5.8%	2,762	529	182	191	24	107
朝倉	871	1,079.4	1.3%	634	121	42	44	6	25
久留米	6,885	1,532.0	10.6%	5,010	960	330	347	44	194
八女・筑後	1,794	1,401.8	2.8%	1,306	250	86	90	12	50
有明	3,459	1,684.0	5.3%	2,517	482	166	174	22	97
飯塚	2,521	1,470.8	3.9%	1,835	351	121	127	16	71
直方・鞍手	1,066	1,037.8	1.6%	776	149	51	54	7	30
田川	1,378	1,207.3	2.1%	1,003	192	66	69	9	39
北九州	15,962	1,514.2	24.5%	11,616	2,225	766	804	103	449
京築	1,669	923.2	2.6%	1,215	233	80	84	11	47

・看護師数の人口10万人当たり人数を見ると、朝倉区域は、県平均よりも少ない状況となっている

・朝倉区域について、就業場所別に見ると、病院が最も多く、次いで診療所、介護保険施設等となっており、病院と診療所で87%を占めている

※二次医療圏ごとの就業場所別の人数(斜体)は、就業場所別の県全体の人数に看護師実数の二次医療圏ごとの割合を掛けて推計したものの

厚生労働省「衛生行政報告例」(2022(令和4)年12月31日現在)

福岡県「人口移動調査」(2022(令和4)年10月1日現在)

13. 医療介護資源の状況〔看護師数・介護職員数〕（「衛生行政報告例」）

●就業場所別の准看護師数

福岡県	准看護師								
	実数	人口10万人 当たり	割合	就業場所別 二次医療圏ごとの就業場所別人数(斜体)は推計値					
				病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護保険 施設等	社会福祉 施設	その他
	13,995	273.6		5,542	5,445	357	2,211	288	152
福岡・糸島	2,893	167.1	20.7%	1,146	1,126	74	457	60	31
粕屋	662	225.8	4.7%	262	258	17	105	14	7
宗像	337	203.4	2.4%	133	131	9	53	7	4
筑紫	757	171.5	5.4%	300	295	19	120	16	8
朝倉	297	368.1	2.1%	118	116	8	47	6	3
久留米	1,451	322.9	10.4%	575	565	37	229	30	16
八女・筑後	542	423.5	3.9%	215	211	14	86	11	6
有明	1,198	583.2	8.6%	474	466	31	189	25	13
飯塚	786	458.6	5.6%	311	306	20	124	16	9
直方・鞍手	534	519.9	3.8%	211	208	14	84	11	6
田川	807	707.0	5.8%	320	314	21	127	17	9
北九州	3,014	285.9	21.5%	1,194	1,173	77	476	62	33
京築	717	396.6	5.1%	284	279	18	113	15	8

・准看護師数の人口10万人当たり人数を見ると、朝倉区域は、県平均よりもかなり多い状況となっている

・朝倉区域について、就業場所別に見ると、病院と診療所が概ね同数で、次いで介護保険施設等となっており、病院と診療所で79%を占めている

※二次医療圏ごとの就業場所別の人数(斜体)は、就業場所別の県全体の人数に看護師実数の二次医療圏ごとの割合を掛けて推計したものの

厚生労働省「衛生行政報告例」(2022(令和4)年12月31日現在)

福岡県「人口移動調査」(2022(令和4)年10月1日現在)

14. 在宅医療の状況

福岡県在宅療養支援診療所等調査(高齢者地域包括ケア推進課)

【調査対象】

九州厚生局に在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料の届出を行っている施設

【調査時期】

毎年5月～7月頃

【回収状況】

令和5年度回答率94.9%

令和7年度回答率97.0%

【項目の説明】

訪問診療:調査対象月1ヶ月間の訪問診療患者数(医療機関所在地ベース)の実数

小児:調査対象月1ヶ月間の19歳以下の訪問診療患者数(医療機関所在地ベース)の実数

在宅看取り:調査前年度1年間の在宅看取り(施設看取り含む)患者数(医療機関所在地ベース)の実数

14. 在宅医療の状況 (高齢者地域包括ケア推進課「福岡県在宅療養支援診療所等調査」)

●在宅医療機関数

	R5年度				R7年度				R5年度→R7年度の推移				今後の意向 ※R5年度調査		
	医療機関数	患者数			医療機関数	患者数			医療機関数の増減	患者数			現在より積極的に取り組みたい	現状維持	今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定
		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り			
福岡・糸島	401	17,824	210	2,456	423	21,874	333	2,790	22	4,050	123	334	101	193	20
粕屋	50	1,154	0	249	50	1,167	12	192	0	13	12	-57	12	26	4
宗像	32	1,421	27	272	32	1,531	46	228	0	110	19	-44	6	20	1
筑紫	69	2,719	7	408	73	3,675	16	623	4	956	9	215	23	32	5
朝倉	37	571	7	79	36	728	12	97	-1	157	5	18	13	22	2
久留米	160	3,627	48	924	158	4,311	81	923	-2	684	33	-1	31	89	8
八女・筑後	45	779	2	318	45	849	1	243	0	70	-1	-75	8	22	4
有明	73	1,595	1	322	72	1,661	5	280	-1	66	4	-42	17	41	2
飯塚	40	1,715	13	485	43	1,959	23	423	3	244	10	-62	10	22	4
直方・鞍手	35	1,355	0	190	34	1,308	1	249	-1	-47	1	59	6	18	2
田川	28	931	0	74	33	1,296	2	72	5	365	2	-2	6	16	2
北九州	323	9,453	20	1,888	329	12,153	122	2,110	6	2,700	102	222	61	165	25
京築	36	810	4	336	35	1,087	9	314	-1	277	5	-22	2	28	3
総数	1,329	43,954	339	8,001	1,363	53,599	663	8,544	34	9,645	324	543	296	694	82

・朝倉地区の令和5年度調査による在宅医療への今後の意向は、「現在より積極的に取り組みたい」が13件、「現状維持」が22件、「今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定」が2件という結果だが、令和5年度から7年度の推移を見ると、医療機関数は1件減少しているが、訪問診療患者数は増加している

14. 在宅医療の状況 (高齢者地域包括ケア推進課「福岡県在宅療養支援診療所等調査」)

●在宅医療に従事する医師数(R7年度)

	医師数				医師の年齢別											
	常勤	非常勤 (常勤換算)	常勤+常勤 換算数		29歳以下		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70歳以上	
福岡・糸島	849	531	89.1	620.1	7	(0.8%)	140	(16.5%)	203	(23.9%)	195	(23.0%)	175	(20.6%)	129	(15.2%)
粕屋	74	60	9.6	69.6	0	(0.0%)	3	(4.1%)	10	(13.5%)	30	(40.5%)	24	(32.4%)	7	(9.5%)
宗像	68	40	6.4	46.4	1	(1.5%)	5	(7.4%)	16	(23.5%)	26	(38.2%)	16	(23.5%)	4	(5.9%)
筑紫	178	100	18.5	118.5	5	(2.8%)	24	(13.5%)	52	(29.2%)	44	(24.7%)	33	(18.5%)	20	(11.2%)
朝倉	80	50	5.6	55.6	2	(2.5%)	13	(16.3%)	22	(27.5%)	11	(13.8%)	16	(20.0%)	16	(20.0%)
久留米	234	188	15.6	203.6	1	(0.4%)	19	(8.1%)	58	(24.8%)	55	(23.5%)	56	(23.9%)	45	(19.2%)
八女・筑後	81	63	13.0	76.0	1	(1.2%)	9	(11.1%)	18	(22.2%)	16	(19.8%)	24	(29.6%)	13	(16.0%)
有明	124	95	9.1	104.1	1	(0.8%)	10	(8.1%)	23	(18.5%)	19	(15.3%)	34	(27.4%)	37	(29.8%)
飯塚	101	56	10.0	66.0	1	(1.0%)	37	(36.6%)	18	(17.8%)	11	(10.9%)	17	(16.8%)	17	(16.8%)
直方・鞍手	46	37	2.7	39.7	0	(0.0%)	7	(15.2%)	9	(19.6%)	9	(19.6%)	12	(26.1%)	9	(19.6%)
田川	50	36	7.6	43.6	0	(0.0%)	4	(8.0%)	7	(14.0%)	16	(32.0%)	11	(22.0%)	12	(24.0%)
北九州	551	362	50.7	412.7	8	(1.5%)	78	(14.2%)	103	(18.7%)	127	(23.0%)	131	(23.8%)	104	(18.9%)
京築	81	48	6.7	54.7	0	(0.0%)	16	(19.8%)	18	(22.2%)	13	(16.0%)	17	(21.0%)	17	(21.0%)
総数	2,517	1,666	244.6	1,910.6	27	(1.1%)	365	(14.5%)	557	(22.1%)	572	(22.7%)	566	(22.5%)	430	(17.1%)

・在宅医療を行う医師の年齢別割合を見ると、朝倉区域では、「40~49歳」が27.5%で最も高く、他の区域と比べると、筑紫区域の次に高くなっている「40~49歳」に次いで割合が高いのは、「60~69歳」、「70歳以上」で、いずれも20.0%となっている

・今後、老年人口が増えていき、在宅医療への需要が高まることが見込まれるが、年齢構成がこのまま維持されるとすると、10年後の医師の高齢化が課題となってくると思われる

14. 在宅医療の状況 (高齢者地域包括ケア推進課「福岡県在宅療養支援診療所等調査」)

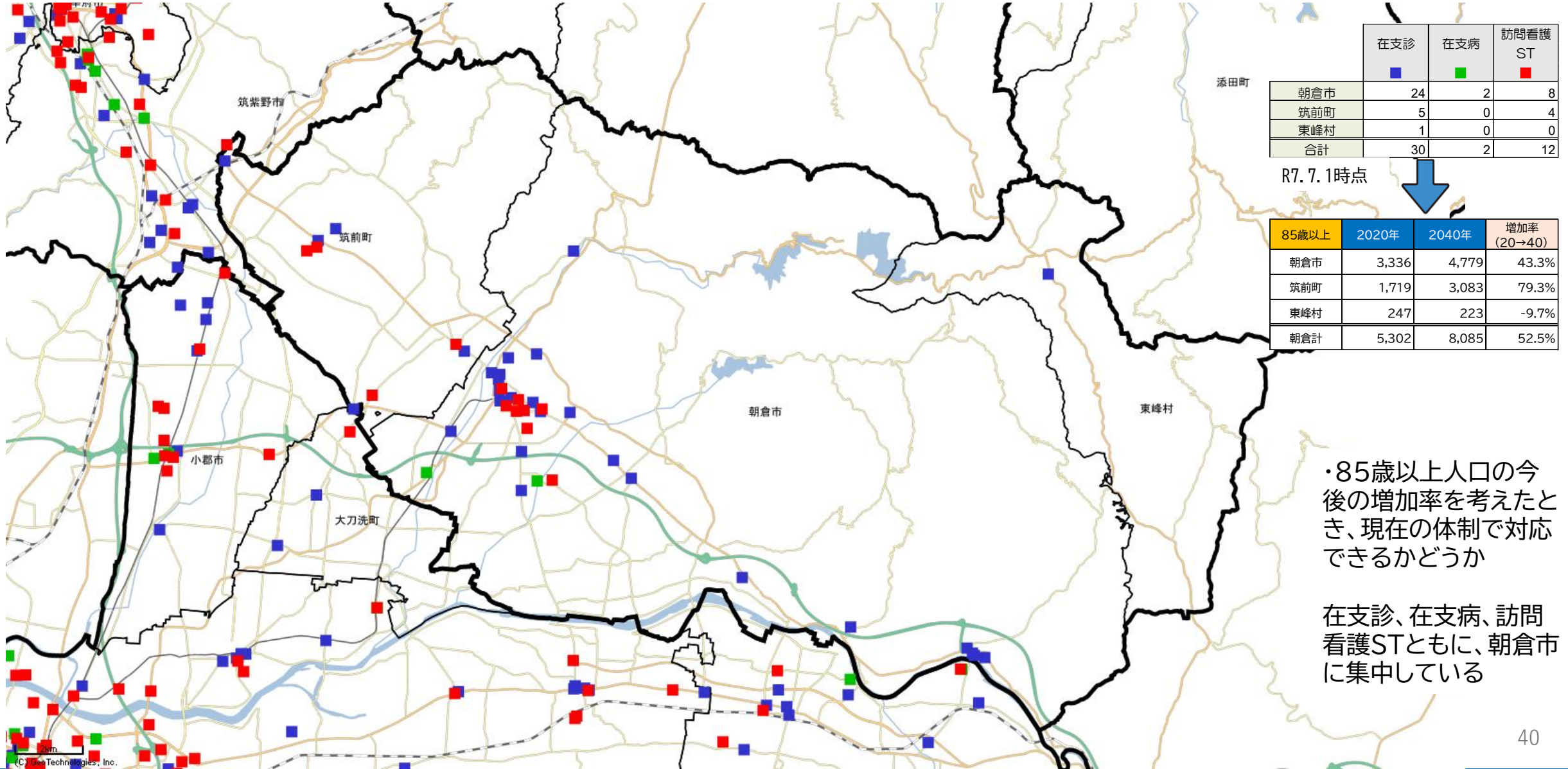
●在宅医療機関数(市町村別)

	R5年度				R7年度				R5年度→R7年度の推移				今後の意向 ※R5年度調査		
	医療機関数	患者数			医療機関数	患者数			医療機関数の増減	患者数			現在より積極的に取り組みたい	現状維持	今後は減らす、または在宅医療から撤退する予定
		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り		訪問診療	小児	在宅看取り			
朝倉市	28	507	7	76	28	679	12	89	0	172	5	13	10	17	1
筑前町	8	51	0	3	7	43	0	8	-1	-8	0	5	3	4	1
東峰村	1	13	0	0	1	6	0	0	0	-7	0	0	0	1	0
朝倉	37	571	7	79	36	728	12	97	-1	157	5	18	13	22	2

●在宅医療に従事する医師数(R7年度)(市町村別)

	医師数				医師の年齢別											
	常勤	非常勤 (常勤換算)	常勤+非常勤 換算数		29歳以下		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70歳以上	
朝倉市	65	43	4.4	47.4	1	(1.5%)	12	(18.5%)	19	(29.2%)	8	(12.3%)	13	(20.0%)	12	(18.5%)
筑前町	8	7	0.2	7.2	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(12.5%)	1	(12.5%)	2	(25.0%)	4	(50.0%)
東峰村	7	0	1.0	1.0	1	(14.3%)	1	(14.3%)	2	(28.6%)	2	(28.6%)	1	(14.3%)	0	(0.0%)
朝倉	80	50	5.6	55.6	2	(2.5%)	13	(16.3%)	22	(27.5%)	11	(13.8%)	16	(20.0%)	16	(20.0%)

14. 在宅医療の状況 (在支診、在支病、訪問看護STの位置)



・85歳以上人口の今後の増加率を考えたとき、現在の体制で対応できるかどうか

在支診、在支病、訪問看護STともに、朝倉市に集中している

15. 看護職員の状況

「看護職員確保に係る実態調査」(医療指導課医師・看護職員確保対策室)

【調査対象】

(1)施設調査:6,451施設

病院(451)、診療所(4,205)、訪問看護ステーション(984)、介護老人保健施設(173)、介護老人福祉施設(439)、介護医療院(55)、障がい児者施設(施設入所・療養介護)(144)、その他(無回答含む)(48)

(2)看護職員調査:10,208人

上記施設に勤務する看護職員

【調査方法】

対象施設に郵送により依頼し、ふくおか電子申請サービスにて回答

【調査時期】

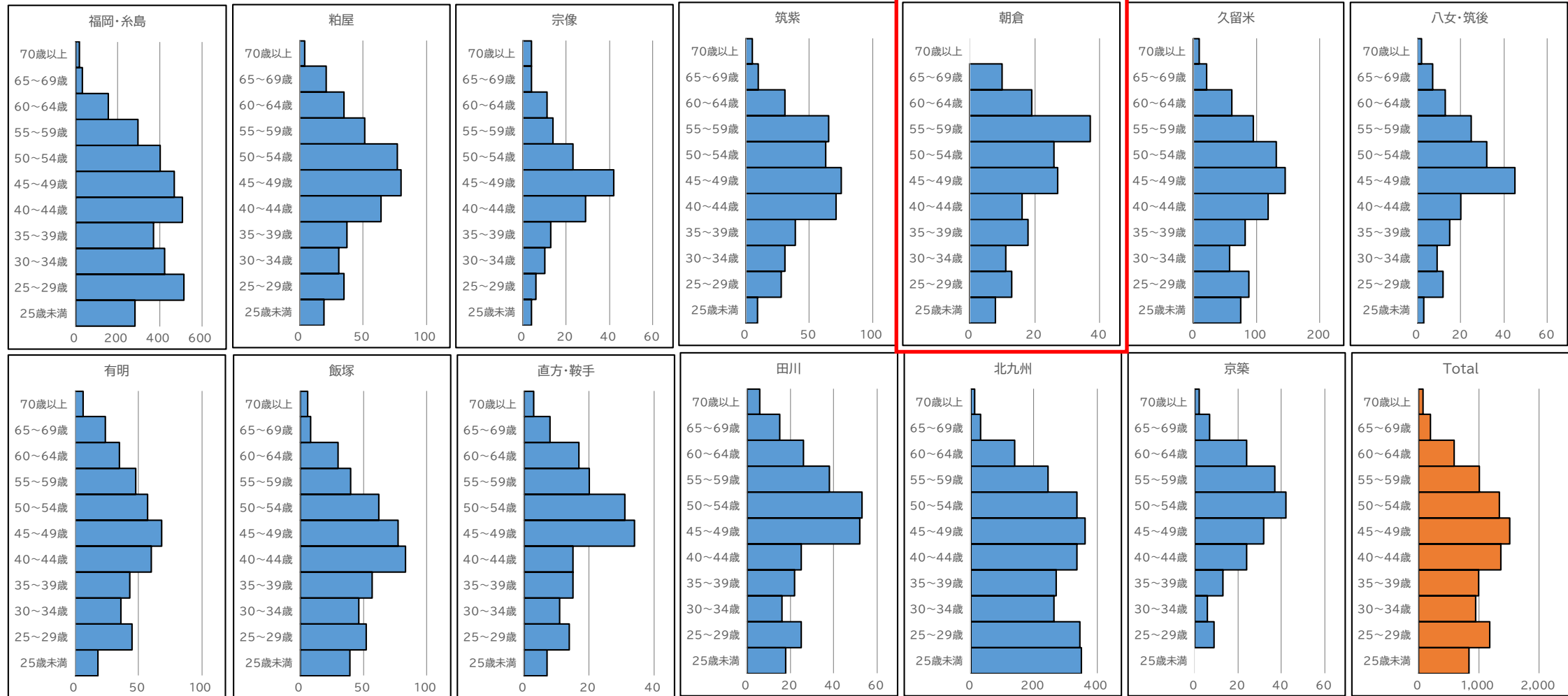
令和6年11月18日(月)～12月13日(金)

【回収状況】

施設2,201件(回収率34.1%)／看護職員回収10,208人

15. 看護職員の状況 (医療指導課医師・看護職員確保対策室「看護職員確保に係る実態調査」)

●二次医療圏・年齢階級別看護師数



- ・朝倉区域の年齢構成ピラミッドを見ると、50代後半の年齢層が非常に多くなっており、他の区域と比べてもこの年代層の多さが顕著である
- ・看護師確保の困難さが言及されているなか、このままの年齢構成で10～20年後を考えた際、医療提供体制を維持できるか

16. 二次医療圏の人口及び流入流出患者割合・比較表 (厚生労働省「患者調査-二次医療圏編」)

二次医療圏	人口				推計流入患者割合			推計流出患者割合		
	H28.8.1時点	R5.8.1時点	差	(増減割合)	H26調査	R5調査	差	H26調査	R5調査	差
福岡・糸島	1,648,241	1,740,857	92,616	(5.32%)	19.1	21.8	2.7	13.2	12.4	▲ 0.8
粕屋	285,000	292,622	7,622	(2.60%)	44.9	42.1	▲ 2.8	39.1	41.1	2.0
宗像	156,744	165,602	8,858	(5.35%)	35.3	33.5	▲ 1.8	34.7	40.9	6.2
筑紫	434,568	440,919	6,351	(1.44%)	33.5	30.6	▲ 2.9	37.2	40.6	3.4
朝倉	83,209	80,348	▲ 2,861	(▲3.56%)	21.3	22.5	1.2	42.1	30.0	▲ 12.1
久留米	455,840	447,316	▲ 8,524	(▲1.91%)	34.5	31.8	▲ 2.7	23.9	22.8	▲ 1.1
八女・筑後	132,283	127,106	▲ 5,177	(▲4.07%)	25.0	27.3	2.3	29.4	34.9	5.5
有明	220,974	202,644	▲ 18,330	(▲9.05%)	20.0	18.4	▲ 1.6	21.8	18.9	▲ 2.9
飯塚	180,023	170,014	▲ 10,009	(▲5.89%)	21.9	23.5	1.6	26.8	25.9	▲ 0.9
直方・鞍手	108,047	101,892	▲ 6,155	(▲6.04%)	25.0	25.8	0.8	36.5	40.4	3.9
田川	124,830	112,634	▲ 12,196	(▲10.83%)	21.1	27.3	6.2	22.4	28.4	6.0
北九州	1,091,345	1,046,238	▲ 45,107	(▲4.31%)	8.2	9.0	0.8	7.7	7.3	▲ 0.4
京築	184,053	179,800	▲ 4,253	(▲2.37%)	20.3	20.2	▲ 0.1	33.2	28.4	▲ 4.8
福岡県	5,105,157	5,107,992	2,835	(0.06%)	21.5	22.0	0.5	20.4	20.5	0.1

朝倉区域は、H28年からR5年の7年間で人口が2,861人減少(3.6%減)している

この7年間に推計流入患者割合は1.2ポイント増加、推計流出患者割合は12.1ポイント減少しており、他区域への流出傾向は弱まっている状況が見られる

※ 人口:福岡県人口移動調査「福岡県の人口と世帯(推計)」(平成28年8月1日現在、令和5年8月1日現在)

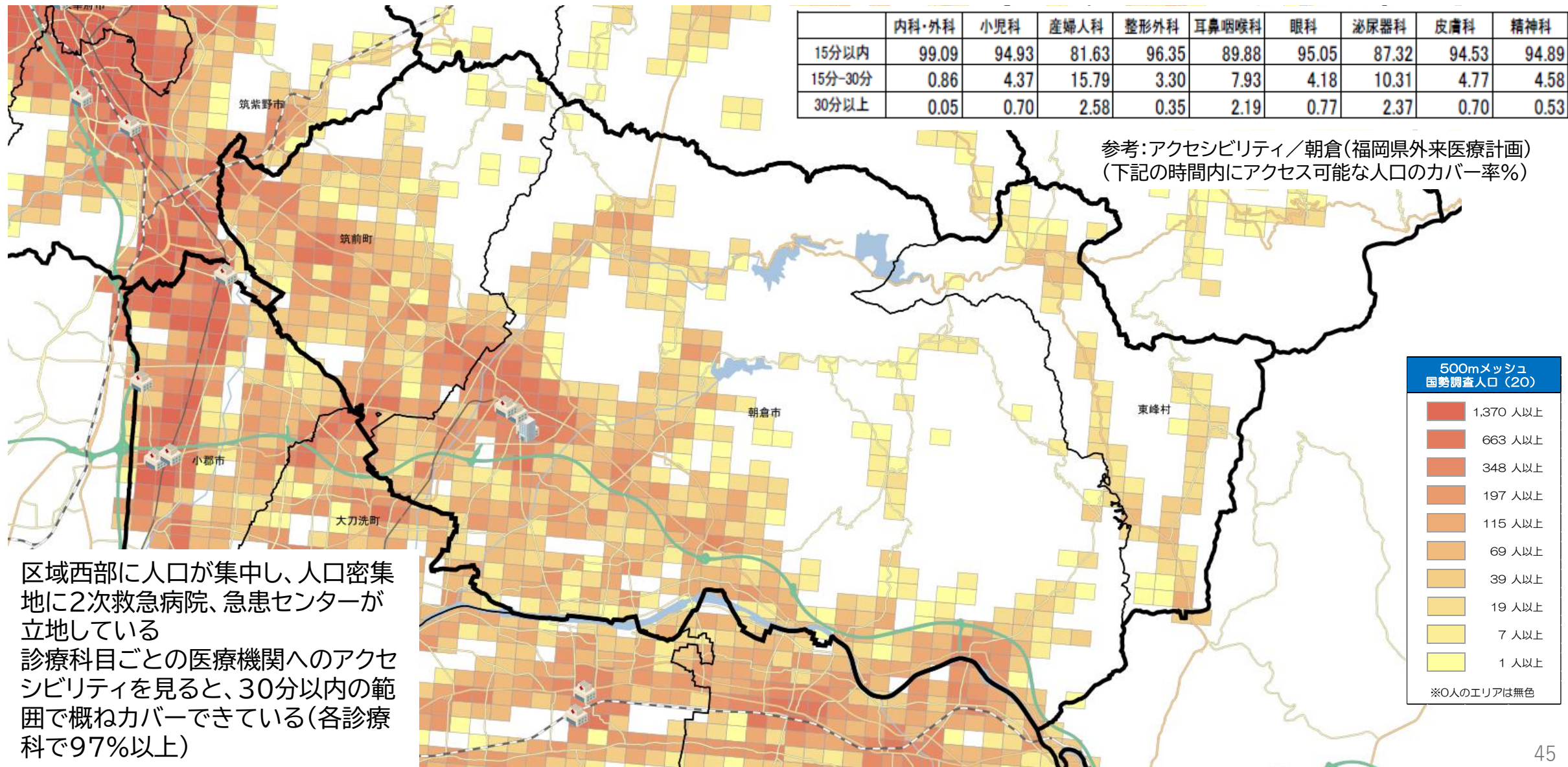
※ 推計流入患者割合、推計流出患者割合:厚生労働省「患者調査」(平成26年10月、令和5年10月)

病院の推計入院患者数の圏内への流入患者割合・圏外への流出患者割合、二次医療圏内・二次医療圏外が不詳の者を推計患者数から除いて算出

17. 二次救急及び急患センターの位置(隣接区域含む)



18. 人口メッシュ(500m) (2020年(令和2年)「国勢調査」)



19. 救急搬送の状況① (令和5年「福岡県消防年報」)

	搬送人員 (人)	年齢区分					居住地		
		新生児(人、割合)	乳幼児(人、割合)	少年(人、割合)	成年(人、割合)	高齢者(人、割合)	管内(人、割合)	管外(人、割合)	その他(人、割合)
甘木・朝倉消防本部	3,828	2 (0.1%)	136 (3.6%)	141 (3.7%)	963 (25.2%)	2,586 (67.6%)	3,309 (86.4%)	518 (13.5%)	1 (0.0%)
福岡県	254,728	687 (0.3%)	10,824 (4.2%)	8,654 (3.4%)	75,536 (29.7%)	159,027 (62.4%)	235,856 (92.6%)	17,854 (7.0%)	1,018 (0.4%)

	初診医診断						軽傷に占める 高齢者数(人、割合)
	死亡(人、割合)	重篤(人、割合)	重症(人、割合)	中等症(人、割合)	軽症(人、割合)	その他(人、割合)	
甘木・朝倉消防本部	85 (2.2%)	0 (0.0%)	477 (12.5%)	1,830 (47.8%)	1,436 (37.5%)	0 (0.0%)	719 (50.1%)
福岡県	1,573 (0.6%)	8 (0.0%)	13,146 (5.2%)	138,915 (54.5%)	100,911 (39.6%)	175 (0.1%)	48,147 (47.7%)

- ・搬送人員を年齢区分別に見ると、朝倉区域、県ともに高齢者の割合が高く、朝倉区域の高齢者の割合は県を5ポイントほど上回っている
→朝倉67.6%、県62.4%
- ・症状別では、朝倉区域は、県に比べて「重症」の割合が高い
→朝倉12.5%、県5.2%
- ・「軽症に占める高齢者の割合」は、朝倉区域は県を若干上回っている
→朝倉50.1%、県47.7%

19. 救急搬送の状況② (令和5年「福岡県消防年報」)

	搬送人員 (人)	うち 高齢者 (人)	高齢者の発生場所							
			住宅 (人、割合)	公衆出入の場所(人、割合)			仕事場 (人、割合)	道路 (人、割合)	その他 (人、割合)	
				うち病院・病床数 20以上の医療機関 (人、割合)	うち病床数19以下 の診療所、医院 (人、割合)	うち老人ホーム、老 人保健施設等の老 人の収容施設 (人、割合)				
甘木・朝倉消防本部	3,828	2,586	1,619 (62.6%)	741 (28.7%)	159 (6.1%)	100 (3.9%)	341 (13.2%)	44 (1.7%)	139 (5.4%)	43 (1.7%)
福岡県	254,728	159,027	98,559 (62.0%)	48,121 (30.3%)	11,316 (7.1%)	4,613 (2.9%)	25,245 (15.9%)	1,237 (0.8%)	10,086 (6.3%)	1,024 (0.6%)

- ・高齢者の救急搬送件数を救急要請の発生場所別に見ると、県全体、朝倉区域ともに、「住宅」が最も割合が高い
→朝倉62.6%、県62.0%
- ・次が「老人ホーム、老人保健施設等の老人の収容施設」である

19. 救急搬送の状況③ (令和5年「福岡県消防年報」)

	搬送人員 (人)	収容平均所要時間 (分)	搬送決定までの連絡回数					搬送先	
			1回(人、割合)	2回(人、割合)	3回(人、割合)	4回以上(人、割合)	うち高齢者(人、割合)	管内(人、割合)	管外(人、割合)
甘木・朝倉消防本部	3,828	41.94	2,852 (74.5%)	552 (14.4%)	229 (6.0%)	195 (5.1%)	146 (74.9%)	2,128 (55.6%)	1,700 (44.4%)
福岡県	246,430	37.91	196,547 (79.8%)	31,515 (12.8%)	12,679 (5.1%)	13,987 (5.7%)	9,051 (64.7%)	201,365 (81.7%)	53,363 (21.7%)

【甘木・朝倉消防本部の主な搬送先】

搬送先機関名	所在市町村	搬送人員 (人)	総計に占 める割合	うち重症(%)		
				うち軽症(%)	うち中等症(%)	うち重症(%)
1位 朝倉医師会病院	朝倉市	1,334	34.8%	34.6%	49.6%	12.6%
2位 朝倉健生病院	朝倉市	402	10.5%	40.8%	44.8%	12.9%
3位 甘木中央病院	朝倉市	376	9.8%	42.8%	41.5%	14.6%
4位 聖マリア病院	久留米市	361	9.4%	47.6%	33.8%	18.3%
5位 嶋田病院	小郡市	330	8.6%	45.2%	48.8%	4.2%
1位～5位の合計		2,803	73.2%	39.5%	45.7%	12.7%
総計		3,828	100.0%	37.5%	47.8%	12.5%

・収容平均所要時間は、県全体が37.9分、甘木・朝倉消防本部が41.9分で、県に比べて4分ほど長くなっている

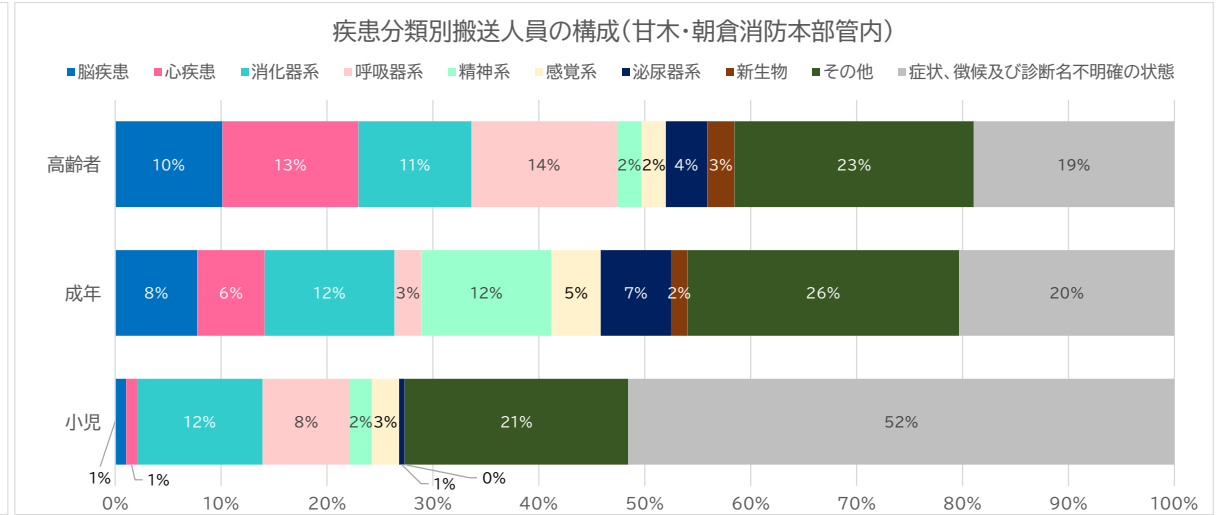
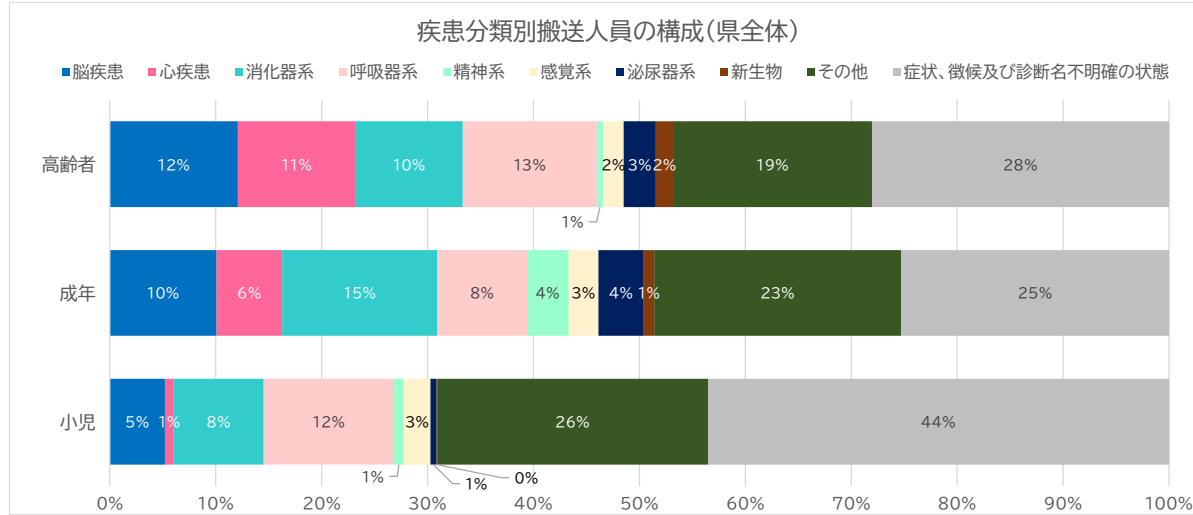
※収容平均所要時間とは、救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間

・搬送決定までの連絡回数は、1回が県79.8%、朝倉区域が74.5%で、4回以上かかる人数は、県が5.7%、朝倉区域が5.1%と概ね同程度である
ただし、4回以上かかる人数のうち高齢者の割合は、県よりも朝倉地区が10ポイントほど高い

・甘木・朝倉消防本部の主な搬送先は、域内の「朝倉医師会病院」、「朝倉健生病院」、「甘木中央病院」で、55%がこれらの病院に搬送されている

19. 救急搬送の状況④ (令和5年「福岡県消防年報」)

● 疾患分類別搬送人員の構成



19. 救急搬送の状況⑤ (令和5年「福岡県消防年報」)

● 小児(新生児、乳幼児、少年の計)に係る朝倉区域内の各消防本部の搬送状況

* 搬送人員が10人以上の医療機関のうち、上位3位を集計

甘木・朝倉消防本部

救急患者:279人(うち 搬送先 管内63人(22.6%)、管外216人(77.4%))

【管内】

病院名		搬送人員	総計に占める割合
1位	朝倉医師会病院	45人	71.4%
2位	甘木中央病院	10人	15.9%
-	-	-	-
管内総計		63人	100.0%

【管外】

病院名		所在市町村	搬送人員	総計に占める割合
1位	聖マリア病院	久留米市	148人	68.5%
2位	福岡大学筑紫病院	筑紫野市	28人	13.0%
3位	嶋田病院	小都市	14人	6.5%
管外総計			216人	100.0%

【参考】甘木・朝倉消防本部

搬送決定までの連絡回数	搬送人員 (割合)
1回	227人 (81.4%)
2回	38人 (13.6%)
3回	9人 (3.2%)
4回以上	5人 (1.8%)

収容平均所要時間 47.21分

【参考】福岡県平均

搬送決定までの連絡回数	搬送人員 (割合)
1回	16,559人 (82.1%)
2回	2,254人 (11.2%)
3回	765人 (3.8%)
4回以上	587人 (2.9%)

収容平均所要時間 37.55分

● 小児に係る朝倉区域内の医療機関への搬送患者の状況

病院名		搬送患者数	搬送先					
			1位		2位		3位	
1位	朝倉医師会病院	50人	甘木・朝倉消防本部	90.0%	久留米広域消防本部	10.0%	-	-
2位	甘木中央病院	11人	甘木・朝倉消防本部	90.9%	久留米広域消防本部	9.1%	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-

20. 救急医療電話相談利用件数

●福岡県救急電話相談事業（#7119）市別利用件数

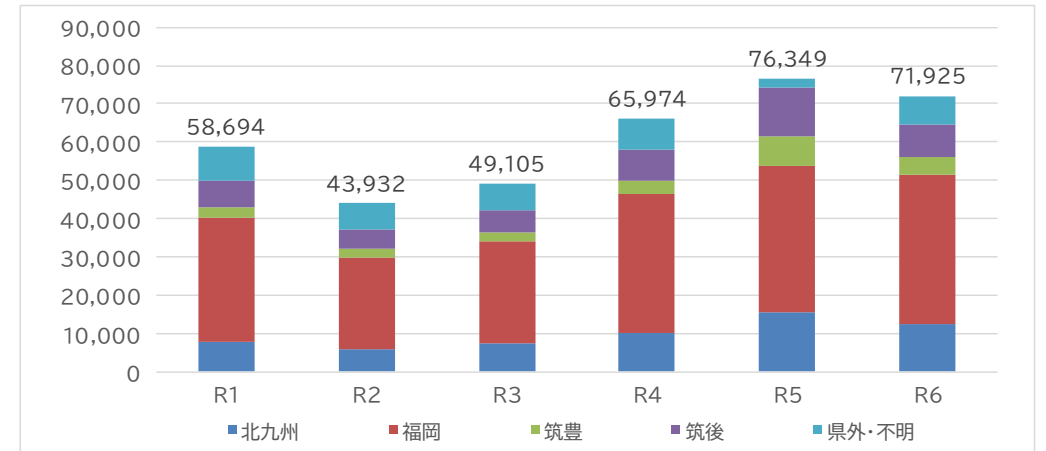
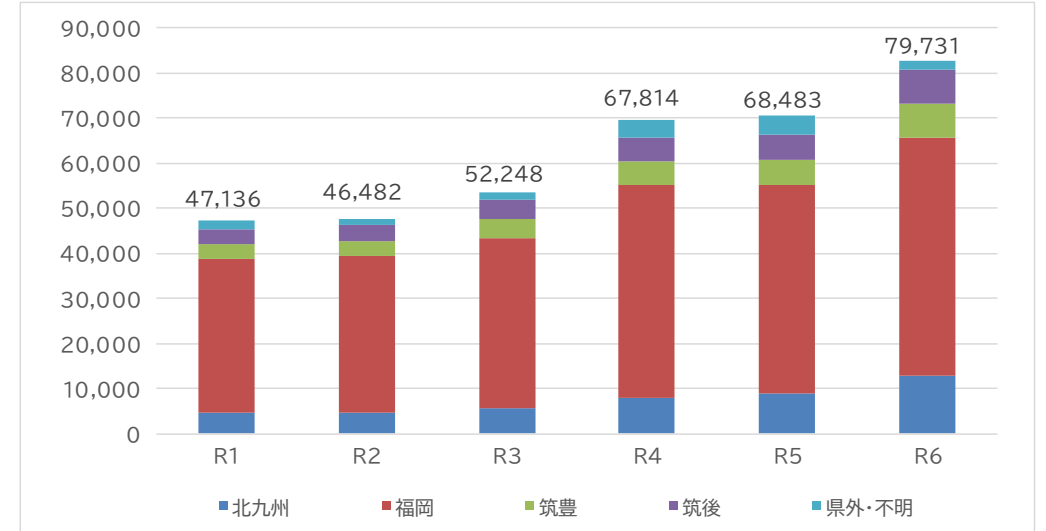
地域別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	増加率 (R1→R6)
北九州	4,716	4,473	5,728	7,984	8,731	12,650	168.2%
福岡	33,951	35,026	37,704	47,051	46,369	53,038	56.2%
筑豊	3,341	2,292	2,739	3,688	3,588	4,413	32.1%
筑後	3,354	3,315	4,134	5,334	5,670	7,526	124.4%
県外・不明	1,774	1,376	1,943	3,757	4,125	2,104	18.6%
福岡県計	47,136	46,482	52,248	67,814	68,483	79,731	69.2%

福岡県のR6年度の「#7119」の利用件数は、前年度(R5年度)から1万1,248件増加し、過去最多の7万9,731件となった
 筑後地域のR6年度の「#7119」の利用件数は、前年度(R5年度)から1,856件増加し、過去最多の7,526件となった

●福岡県小児救急医療電話相談（#8000）件数

地域別	R1	R2	R3	R4	R5	R6	増加率 (R1→R6)
北九州	7,615	5,869	7,334	10,265	15,449	12,596	65.4%
福岡	32,539	24,063	26,695	36,142	38,283	38,759	19.1%
筑豊	2,843	2,230	2,472	3,546	7,872	4,544	59.8%
筑後	6,919	4,795	5,651	8,177	12,649	8,656	25.1%
県外・不明	8,778	6,975	6,953	7,844	2,096	7,370	-16.0%
福岡県計	58,694	43,932	49,105	65,974	76,349	71,925	22.5%

福岡県の「#8000」の相談件数はR2年度から増加傾向にあり、過去最多は前年度(R5年度)の7万6,349件である
 筑後地域の「#8000」の相談件数はR2年度から増加傾向にあり、過去最多は前年度(R5年度)の1万2,649件で、R6年度は8,656件となった



* 地域別の件数は相談者居住地による相談件数

21. MDC(主要診断群分類)別割合(手術あり) (令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査(R5.4月～R6.3月)」)

Major Diagnostic Category : WHOが制定しているICD-10分類「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」に基づく18の主要診断群のこと

神経系 (01)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)
眼科系 (02)	: —
耳鼻科系 (03)	: —
呼吸器系 (04)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)
循環器系 (05)	: 朝倉医師会病院 (63.8%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (36.2%)
消化器系 (06)	: 朝倉医師会病院 (82.5%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (13.4%)
筋骨格系 (07)	: (医) 俊聖会甘木中央病院 (48.7%)、朝倉医師会病院 (25.6%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (25.6%)
皮膚系 (08)	: —
乳房系 (09)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)
内分泌系 (10)	: —
腎尿路系 (11)	: 朝倉医師会病院 (60.3%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (39.7%)
女性系 (12)	: —
血液系 (13)	: —
新生児系 (14)	: —
小児系 (15)	: —
外傷系 (16)	: 朝倉医師会病院 (62.6%)、(医) 俊聖会甘木中央病院 (25.6%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (11.9%)
精神系 (17)	: —
その他 (18)	: —

21. MDC(主要診断群分類)別割合(手術なし) (令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査(R5.4月～R6.3月)」)

Major Diagnostic Category : WHOが制定しているICD-10分類「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第10回修正」に基づく18の主要診断群のこと

神経系 (01)	: 朝倉医師会病院 (80.4%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (11.3%)、(医) 俊聖会甘木中央病院 (8.3%)
眼科系 (02)	: ー
耳鼻科系 (03)	: 朝倉医師会病院 (65.2%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (19.1%)、(医) 俊聖会甘木中央病院 (15.7%)
呼吸器系 (04)	: 朝倉医師会病院 (90.1%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (6.2%)
循環器系 (05)	: 朝倉医師会病院 (70.9%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (21.8%)、(医) 俊聖会甘木中央病院 (7.3%)
消化器系 (06)	: 朝倉医師会病院 (82.1%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (14.4%)
筋骨格系 (07)	: (医) 俊聖会甘木中央病院 (55.2%)、朝倉医師会病院 (44.8%)
皮膚系 (08)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)
乳房系 (09)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)
内分泌系 (10)	: 朝倉医師会病院 (48.2%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (37.3%)、(医) 俊聖会甘木中央病院 (14.5%)
腎尿路系 (11)	: 朝倉医師会病院 (70.7%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (29.3%)
女性系 (12)	: ー
血液系 (13)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)
新生児系 (14)	: ー
小児系 (15)	: ー
外傷系 (16)	: 朝倉医師会病院 (66.3%)、(医) 俊聖会甘木中央病院 (23.8%)、(医) 医王会朝倉健生病院 (9.9%)
精神系 (17)	: ー
その他 (18)	: 朝倉医師会病院 (100.0%)